

令和4・5・6年度 福岡県重点課題研究指定・委嘱校

<重点課題> 情報モラルに関する指導の充実

【研究主題】

主体的に情報社会に参画する児童生徒の育成

～発達段階に応じた指導方法の工夫と家庭・地域との連携推進体制づくりを通して～



令和5年11月21日（火）

筑紫野市立原田小学校

筑紫野市立筑紫野南中学校

はじめに

本市では、児童の権利に関する条約の理念に基づき、子どもが自分も他人も大切にし、いきいきと過ごすことができる住みよいまちをつくることを目指し、平成23年4月1日に「筑紫野市子ども条例」が施行されました。その基本理念は、子ども一人ひとりが権利の主体として尊重されること、子どもの自尊感情が育まれるよう配慮されること、子どもと大人との信頼関係を基に地域社会全体で推進されることされています。一方、子どもたちを取り巻く社会は、スマートフォンやSNSの急速な普及により大きく変化し、これらの利用によってトラブルや犯罪に巻き込まれる事例が数多く発生しています。こうした背景を踏まえ、学校では、地域や家庭と連携した児童生徒の健康や安全を確保するための取組の推進や児童生徒自らが情報化社会を生き抜く力を身に付け、自他の権利を尊重する態度を養うための情報モラル教育の充実が求められています。

本市筑紫野南中学校、原田小学校では、令和4年度から3か年の福岡県重点課題研究指定・委託を受け、「主体的に情報社会に参画する児童・生徒の育成～発達段階に応じた指導方法の工夫と家庭・地域との連携推進体制づくりを通して～」について小中連携しながら研究を進めています。具体的には、小中9か年で育む系統的な情報モラルカリキュラムの編成、情報モラルの育成に資する家庭・地域との連携推進体制づくり、小中連携による推進体制の構築を柱とし、研究を進めておりますが、まだまだ研究は道半ばであり、課題も山積している状況です。

本日の中間報告会においては、皆様からの忌憚のないご指導、ご助言を賜り、次年度最終報告会に向けての改善を図りたいと考えております。いきいきと学ぶ子どもの姿や研究実践等で成果をお示しできるよう、さらに研究を進めて参ります。

結びとして、本研究の推進において、ご指導ご支援いただきました、大阪電気通信大学教授石塚丈晴先生をはじめ、福岡県教育庁教育振興部義務教育課、福岡県教育センター、福岡教育事務所の先生方の皆様に心より感謝申し上げます。

令和5年11月21日

筑紫野市教育委員会
教育長 上野二三夫

目 次

- ◇ はじめに
- ◇ 目次
- ◇ 日程
- ◇ 会場案内図

I 研究構想

- 1 主題設定の理由 1
- 2 主題の意味 2
- 3 副主題の意味 3
- 4 研究目標 4
- 5 研究仮説 4
- 6 研究の具体的な内容 4
- 7 研究構想図 5
- 8 研究組織の年次計画 6

II 公開学習指導案

- 1 原田小学校 第1学年 学級活動 7
- 2 原田小学校 第3学年 道徳科 9
- 3 原田小学校 第5学年 総合的な学習の時間 11
- 4 筑紫野南中学校 第1学年 道徳科 14
- 5 筑紫野南中学校 第2学年 学級活動 16

III 「情報モラル」カリキュラム

- 1 原田小学校 18
- 2 筑紫野南中学校 24

- ◇ 引用・参考文献 30
- ◇ アンケートのお願い 31
- ◇ おわりに 32

日 程

研究主題： 主体的に情報社会に参画する児童生徒の育成
 ～発達段階に応じた指導方法の工夫と家庭・地域との連携推進体制づくりを通して～

- 1 期日 令和5年11月21日(火)
 2 会場 筑紫野市立原田小学校(公開授業)
 筑紫野市立筑紫野南中学校(公開授業、全体会、研究協議会)

3 日程

(1) 公開授業

<原田小学校 13:30 ~ 14:15>

学年・組	教科等	主題・教材等	授業者	授業会場
1年2組	学級活動	正しいタブレットの使い方	高橋 巧一	1年2組教室
3年1組	学級活動	わたしとメディア	焼山 幸祐	3年1組教室
5年1組	総合的な 学習の時間	正しく使おう!ぼくたち・わたしたちのスマートフォン デビューに向けて!	森山 龍之介	体育館

<筑紫野南中学校 13:30 ~ 14:20>

学年・組	教科等	主題・教材等	授業者	授業会場
1年3組	道徳科	友情・信頼 B-8 短文投稿サイトに友だちの悪口を書くと	花田 恵子	1年3組教室
2年4組	学級活動	SNSへの適切な関わり方	櫻井 一輝	2年4組教室

(2) 全体会・研究協議会 14:40~16:00

全体会場：筑紫野南中学校 体育館

分科会場：筑紫野南中学校 体育館・3年1組教室・3年3組教室

*全体会の様子は各研究協議会(分科会)会場へ配信しますので参加される研究協議会(分科会)会場にお入りください。

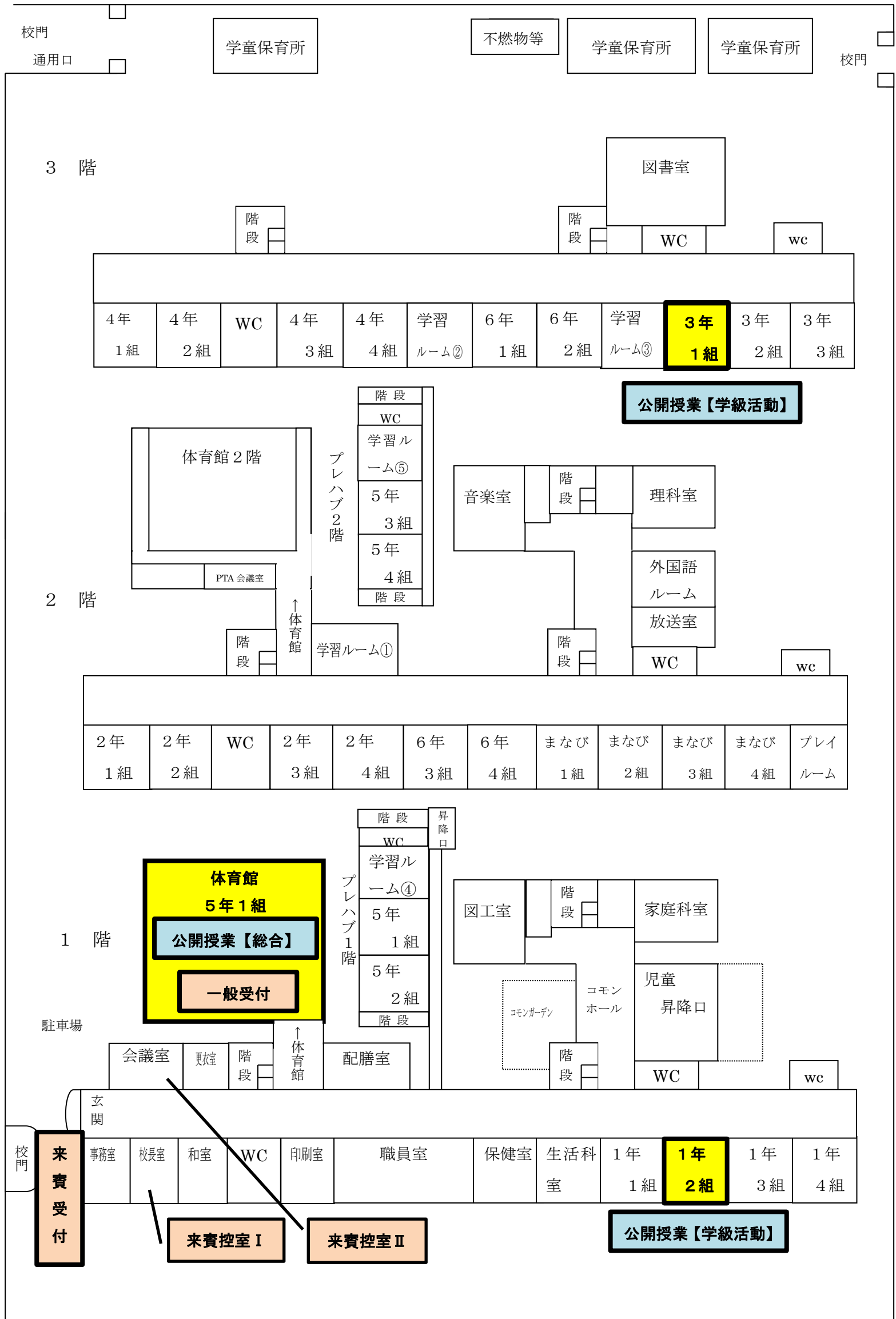
- ① 開会行事(全体会) 14:40~
 挨拶 福岡県教育庁教育振興部義務教育課 主任指導主事 原 クミ
 挨拶 筑紫野市立筑紫野南中学校 校長 船本 浩之
- ② 研究発表(全体会) 14:50~
 筑紫野市立筑紫野南中学校 教諭 原 健一
- ③ 研究協議会(分科会) 15:10~
 ○カリキュラム編成部会 (筑紫野南中学校 体育館)
 ○授業実践部会 小学校部会 (筑紫野南中学校 3年1組教室)
 中学校部会 (筑紫野南中学校 3年3組教室)
- ④ 閉会行事(全体会) 15:50~
 挨拶 筑紫野市教育委員会 教育長 上野 二三夫

*一般参加はここまでとなります。

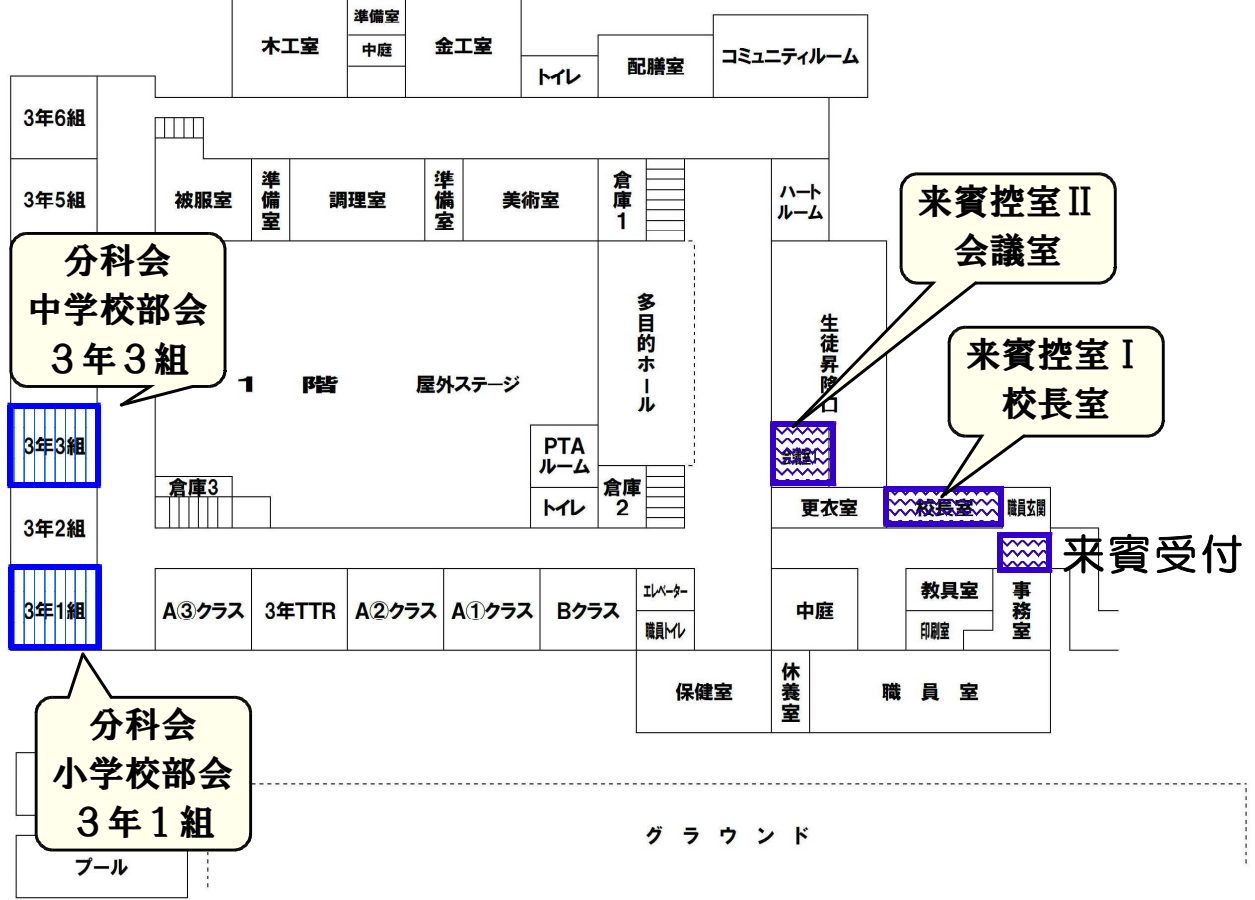
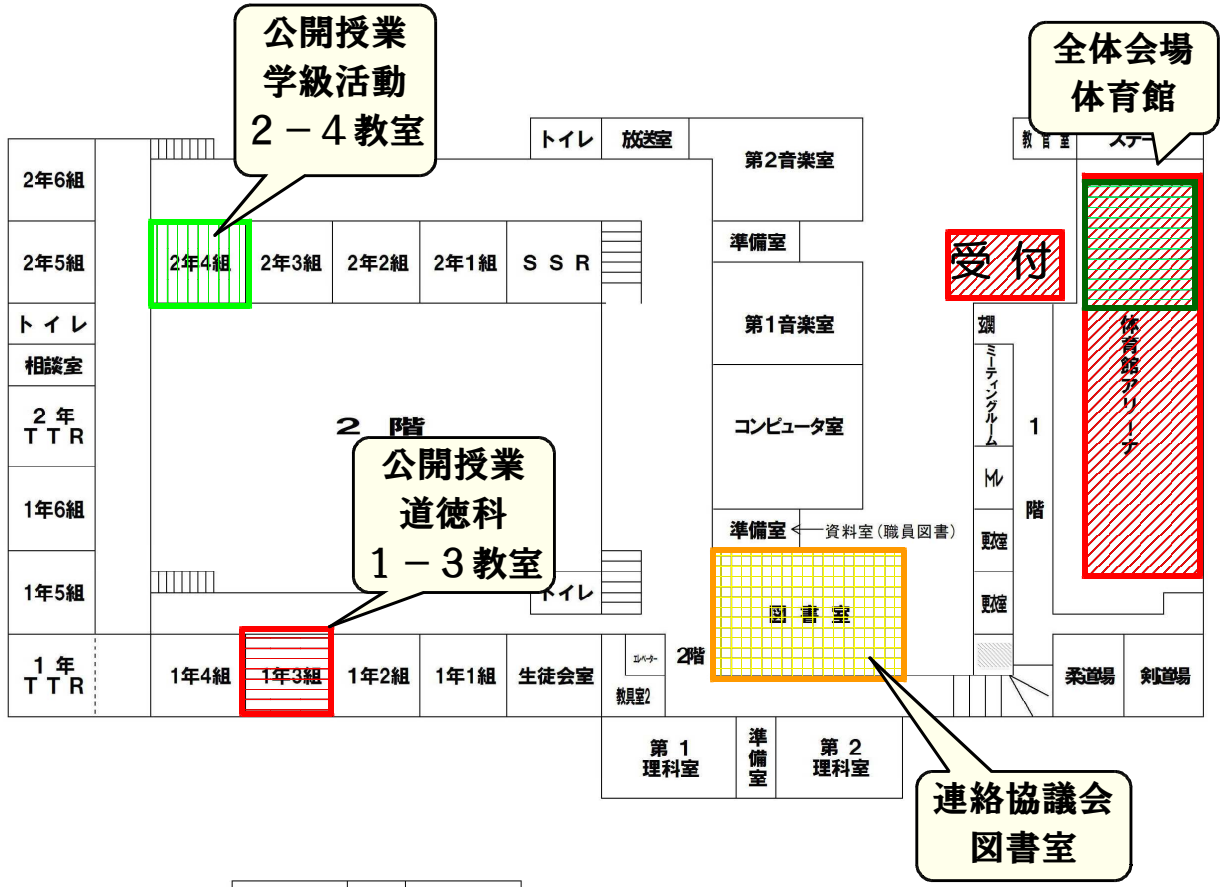
(3) 連絡協議会 16:10~16:50 (筑紫野南中学校 図書館)

- 今後の研究の方向性
 ○専門委員によるまとめ 大阪電気通信大学 教授 石塚 丈晴
 ○謝辞 筑紫野市立原田小学校 校長 磯部 年晃

筑紫野市立原田小学校 会場案内図



筑紫野南中学校 会場図



主体的に情報社会に参画する児童生徒の育成

－発達段階に応じた指導方法の工夫と家庭・地域との連携推進体制づくりを通して－

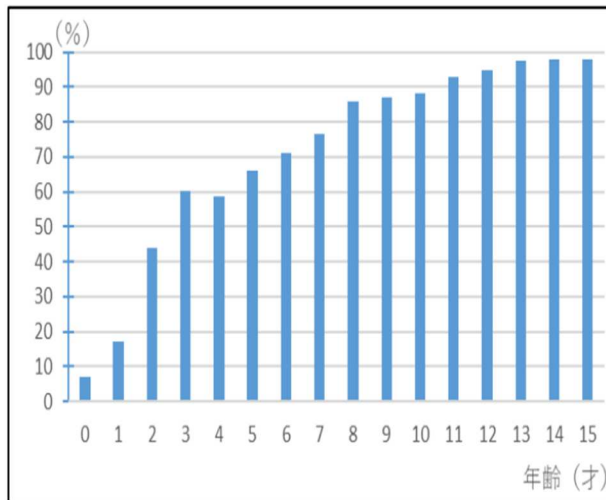
I 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

『教育の情報化の手引き(追補版)』(令和2年6月)には、「スマホやSNSが児童生徒にも急速に普及する中で、児童生徒が自他の権利を尊重し、情報社会での行動に責任を持つとともに、犯罪被害を含む危機を回避し、情報を正しく安全に利用するため、学校における情報モラル教育は極めて重要である。」と述べられている。GIGAスクール構想により、一人一台端末を活用した学習が推進されている中で、この指針は重要性を増していると言えるだろう。

また、『令和3年度青少年のインターネット利用環境実態調査』(令和4年2月内閣府)(表1)から、0歳から15歳までのインターネット利用率を保護者に調査した結果について見ていくと、0歳からインターネットを利用している子供がいることが分かり、小学校高学年からは90%以上、中学生は95%以上に達している。インターネットは生活の一部と化し、なくてはならないものになっていることが分かる。

これだけ子供たちのインターネットの利用率や情報機器の所有率や使用率が高まっている中で、家庭や学校における情報モラルの指導が後手に回ってしまっていることから、児童生徒が様々なトラブルに巻き込まれて大きな問題となっている。このような状況を改善するためには、従来の情報モラルの指導を見直し、「情報の科学的な理解」をもとに、どうすべきかを理由付けて考え、「適切に判断できる力」を育成する情報モラル教育の充実が求められている。



【表1 年齢別の子供のインターネット利用状況】

(2) これまでの情報モラル教育の課題から

これまでも各学校で情報モラル教育は行ってきた。SNSやネットゲーム等でトラブルが発生するたびに特設授業やルールづくりなどの対処的な取組が多く行われてきた。

また、規範教育として教育団体や情報機器・携帯電話会社の講師を招いて、講義や講演形式で、子供たちにネットでのいじめやSNSを通じた犯罪被害の危険性を伝えることで、活用ルールを守らせたりネット利用を抑制したりするような学びを行ってきた。子供たちは一方的にネットの怖さやSNSの危険性など、そのことを自分事として捉え考えることができるという指導にまでは至っていなかった。

そのため、ゲームに集中し、寝る時間が遅くなったりしても、その時に自分はどうしたらいいか適切に判断したりや行動したりすることができず、その結果、ネットによるトラブルに遭遇し、悪循環に陥るなどした結果、情報機器を使わせないという禁止の立場をとることも多かった。

このような抑制的な情報モラル教育を積み重ねてきたが、改善の傾向はあまり見られず、子供たちが危険にさらされることが増加している。

そのため、情報社会が進んでいる中で、これからは子供たちや保護者が情報や情報技術について安全かつ合法的で責任を持った利用を理解して活用できるように学び方を転換していく必要がある。

2 主題の意味

(1) 「主体的に情報社会に参画する児童生徒」とは

情報社会で適正な活動を行うための基本となる考え方（情報モラル）を身に付け、情報を正しく安全に利用し、積極的に自分の意志で判断しながら情報社会と関わろうとする児童生徒である。

具体的には、次のような子供の姿である。

- 他者への影響を考えて、人権や知的財産権など自他の権利を尊重しながら、情報社会での行動に責任を持つ児童生徒
- 犯罪被害を含む危機の回避など、情報を正しく安全に利用できる児童生徒
- コンピュータ等の情報機器の使用による健康との関わりを理解する児童生徒

以上のような児童生徒を育成するためには、情報モラルを身に付けておくことが必要な条件である。ここでは「情報モラル」を、以下のように定義する。

情報社会で適正な活動を行うための基礎となる考え方と態度であり、情報活用能力に含まれる学習の基盤となる資質・能力の一部である。道徳（モラル）を、単に一般的な規律としてではなく、自己の生き方と密着させて具象化したところに生まれる情報社会における判断力や主体的な態度である。

これは、情報社会を生き抜き、健全に発展させていく上で、全ての国民が身に付けておくべきものである。子供たちに身に付けさせる情報モラル教育の内容は、大きく2つに分けられ、2領域5観点の内容を押さえていく必要がある（図1）。5観点は、筑紫野市教育委員会が作成した「情報モラル教育等ガイドライン」に示されているものである。

ア 情報社会における正しい判断や望ましい態度を育てること「心を磨く領域」

人権や知的財産権など自他の権利を尊重し、情報社会での行動に責任を持つことが大切である。そのためには、自分を律して、適切に行動できる正しい判断力や相手を思いやる豊かな心情、ネットワークをよりよくしようとする積極的な心が求められる。



【図1 情報モラルの2領域5観点】

学年	情報モラル	
中3	情報技術 の特性	情報活用能力
中2		
中1		
小6	日常モラル	情報活用能力
小5		
小4		
小3		
小2		
小1		

【図2 情報モラル指導概略図】

イ 情報社会で安全に生活するための危機回避の理解やセキュリティの知識・技能、健康への意識「知恵を磨く領域」

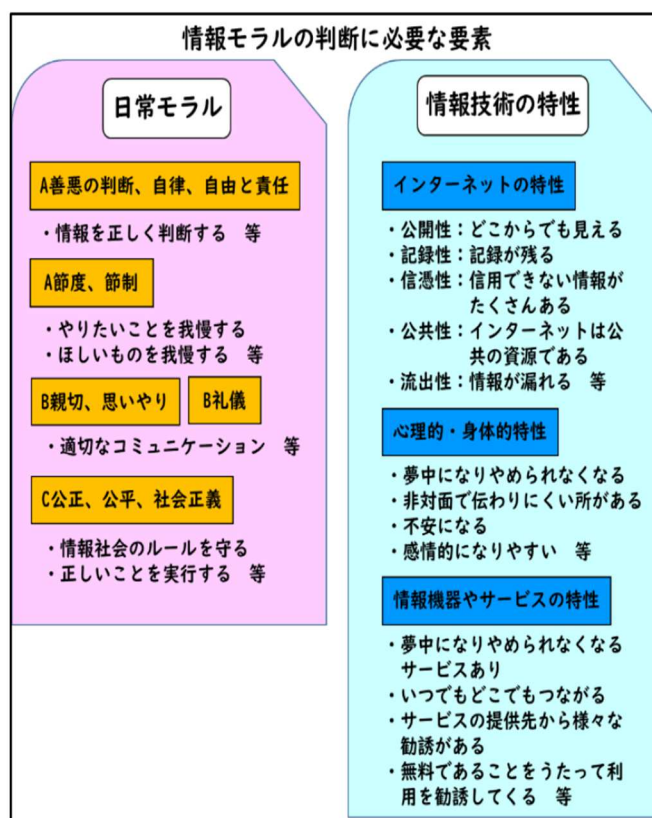
危機回避など情報を正しく安全に利用したり、情報機器の使用による健康との関わりを理解したりすることが大切である。情報化が進み、生活が便利になればなるほど危険に遭遇する機会も増える。情報社会で安全に生活するためには知識や態度を学ぶ必要がある。また、健康を保つためには、長時間使用による視力や姿勢への影響及び昼夜逆転やネット依存等の問題から身を守る適切な指導が求められる。

そして、情報モラルは、ネット依存やコミュニケーショントラブル、ネット被害等、情報機器から発生するトラブルなど様々な問題だと思われがちである。しかし、こうした問題の本質は、

日常モラルであることを理解して、さらに情報技術の基本的な特性を理解することができるようにすることで、問題の本質を見抜き、子供が主体的に解決できる力を身に付けさせることが重要である。

$$\boxed{\text{情報モラル}} = \boxed{\text{日常モラル}} + \boxed{\text{情報技術の特性}} \quad (\text{図2})$$

情報モラル教育を進めるために、キーボード入力やインターネット上の情報の閲覧、表やグラフの作成、プレゼンテーションの作成等、ICT 機器の基本的な操作の習得は、学年に応じて段階的に獲得を図ることが必要である。基本的な操作を高めながら、情報モラルの判断に必要な要素を道徳科を中心とした「日常モラル」と学級活動や総合的な学習の時間で「情報技術の特性」であるインターネットの特性、使用者の心理的・身体的特性、機器やサービスの特性といった仕組みの理解を見童生徒の発達段階に応じて指導していくことが重要である（図3）。



【図3 情報モラルの判断に必要な要素】

3 副主題の意味

(1) 「発達段階に応じた指導方法の工夫」とは

情報社会における正しい判断や望ましい態度及び情報社会で安全に生活するための危険回避の理解やセキュリティの知識及び技能、健康に対する意識の高揚を育てるための小中9か年で育む系統的な情報モラルカリキュラムの編成を目指す。

カリキュラムの編成にあたっては、「筑紫野市情報モラル教育等ガイドライン」に基づき、5つの観点（A ネットコミュニケーション、B 権利と法令遵守、C 信頼性や危険回避、D 心身の健康、E セキュリティ基礎知識）において、学習内容（テーマ）を決定する。学習指導要領において、情報モラルを含む情報活用能力は、学習の基盤となる資質・能力と位置付けられていることから、本研究においては、道徳、学級活動、総合的な学習の時間を中心として、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、教科等横断的な視点で配列し、教科等横断型総合情報モラル単元を編成することとした。

また、情報モラルに係る実践的態度の形成を目指し系統的な指導の工夫を図る。小学校段階では、道徳科の「A 善悪の判断、自律、自由と責任」、「A 節度、節制」、「B 親切、思いやり」、「B 礼儀」、「C 公正、公平、社会正義」を中心とした日常モラルの知識と、学年に応じた「インターネットの特性」、「心理的・身体的特性」、「機器やサービスの特性」など、情報技術の仕組みを中心に取り組む。中学校段階では、情報技術の特性を中心に児童生徒の日常生活に寄り添い、思考・判断したことを行動に移すことができるようにすることをねらいとする。

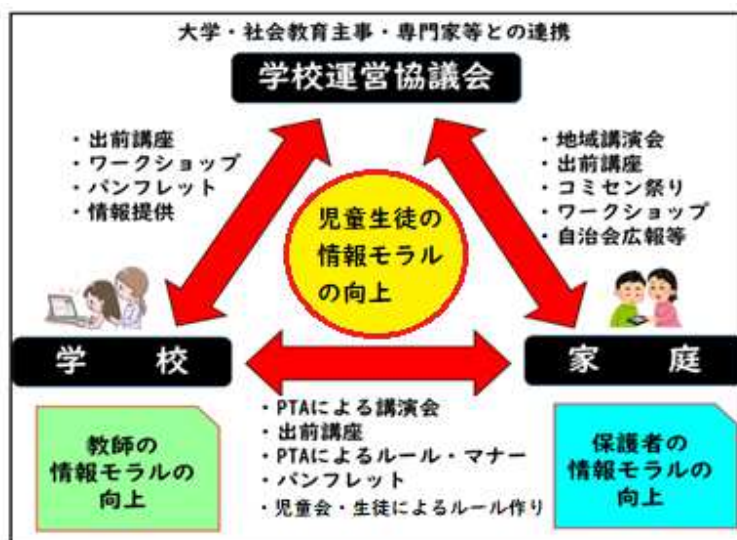
また、効果的な指導法の評価は、授業で児童生徒の記述とアンケートをもとにしたテキストマイニングや共起ネットワーク、情報モラルテストで行う。テキストマイニングや共起ネットワークとは、児童生徒の記述から、キーワードや感情を分類し、意識の変化や意欲等の情報を取り出すことができる分析方法である。授業ごとにノートや感想から記述内容を収集し、その変容を分析する。

情報モラルテストとは、P研（ICT プロフィシエンシー検定試験）が無料で行う情報モラルテストである。情報モラルの知識やネット犯罪等の被害者や加害者にもならない対応能力を数値化し、判断

する。このテストは、研究の始め・中・終わりで言い、意識の変容を分析するときに活用する。

(2) 「家庭・地域との連携推進体制づくり」とは

学校だけの指導には限界がある。そのため、児童生徒に対する学校からのアプローチだけではなく、学校で行っている情報モラルの指導内容を保護者やPTA組織などにも説明して、また、学校運営協議会を中心とする地域とのつながりを活用した啓発及び情報共有・発信等の活動が不可欠である。情報モラル教育は、学校だけではなく、保護者の意識や家庭での情報モラル教育が必要ないま、家庭や地域と連携して、児童生徒の育つ環境をよりよくすることが大切だと考える。それぞれが協働することにより、児童生徒や教職員、保護者、地域を巻



【図4 学校・家庭・地域との連携】

き込んだ情報モラルの向上が図られると考えられる（図4）。筑紫野市では、学校運営協議会が特に活発に運営されており、大学や社会教育主事、専門家等と連携して、学校や家庭、地域が協働することにより児童生徒が社会の情報化に対応できるような情報モラルを身に付けられるようにする。

4 研究目標

主体的に情報社会と関わろうとする児童生徒の育成を目指し、系統的な情報モラルに関する指導カリキュラムの編成と情報モラルの育成に資する家庭・地域との連携の在り方について究明する。

5 研究仮説

児童生徒の実態や発達段階に応じ、教科等横断型総合情報モラル単元の開発を通して、系統的な情報モラルカリキュラムを編成し、家庭・地域と連携・協力した取組を行えば、情報社会で適正な活動を行うための基本となる考え方を身に付け、情報を正しく安全に利用し、健全で公共的なネットワーク社会を支える一員として、主体的に情報社会に関わろうとする児童生徒を育成できるであろう。

6 研究の具体的な内容

（視点1）小中9か年で育む系統的な情報モラルカリキュラムの編成

- ・「筑紫野市情報モラル教育等ガイドライン」を活用した学習内容の精選
- ・教科等横断型総合情報モラル単元の開発
- ・情報モラルに係る実践的態度の形成を目指した系統的な指導の工夫

（視点2）情報モラルの育成に資する家庭・地域との連携推進体制づくり

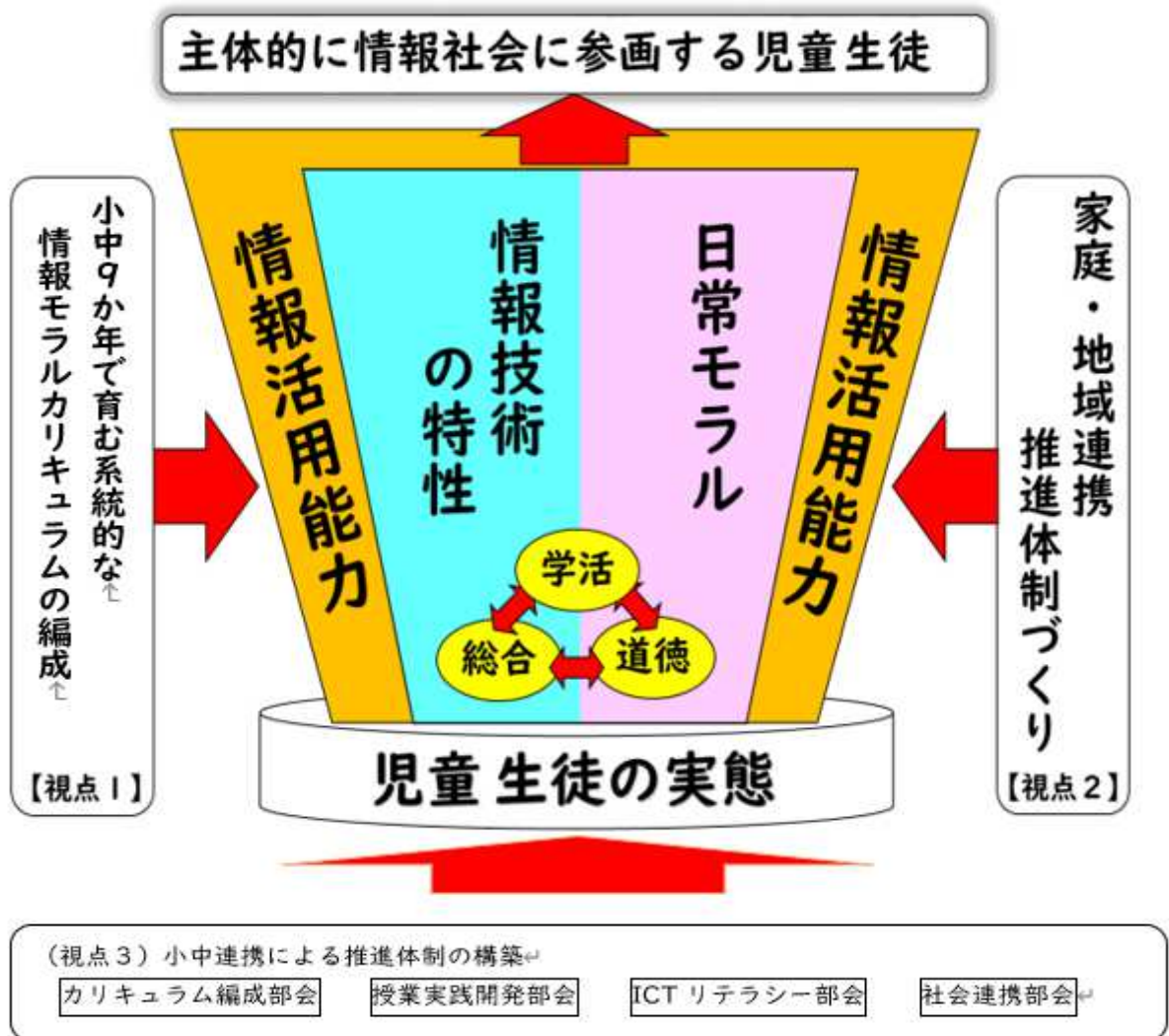
- ・学校運営協議会を中心とした学校・家庭と協働した取組と体制づくり
- ・外部の専門家と協働した取組づくり

(視点3) 小中連携による推進体制の構築

小中9か年で育む系統的な情報モラルカリキュラムの編成に向けて、小中学校で共通の推進体制を構築する。

部会	カリキュラム編成部会	授業実践開発部会	ICTリテラシー部会	社会連携部会
担当者	教務担当主幹 研究主任 学年主任 教科等主任	研究副主任 研究主任 若年教員	ICT(情報教育)担当 中堅教員	教頭 地域担当主幹 生徒指導主事 児童会・生徒会担当
内容	○発達段階に応じたカリキュラムの作成 ○他教科等との関連	○教材の開発 ○効果的な指導方法の工夫	○ICTの効果的な活用方法の工夫	○地域・家庭連携 ○児童会・生徒会の連携

7 研究構想図



8 研究組織の年次計画

	原田小学校 筑紫野南中学校 筑紫野市教育委員会	福岡県 教育センター	福岡 教育事務所	義務教育課
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構想案作成 ・ 推進計画・推進チーム立ち上げ ・ 実態調査アンケート実施・分析 ・ 校内研修実施 ・ 協議 ・ 成果の共有 ・ 課題整理 ・ カリキュラム試案作成 ・ 自分事として捉える指導方法研究 ・ 家庭・地域との連携実施 ・ 1年次報告会実施 ・ 取組内容評価 ・ カリキュラム改善 ・ 2年次に向けた計画及び準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き取り ・ 構想の具体化 ・ アンケート作成支援 ・ 研究支援 ・ カリキュラム作成支援 ・ 授業のICT支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き取り ・ 授業支援 ・ 研究支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究構想作成 ・ アドバイス ・ 研究支援 ・ 全体アドバイス
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内研修実施 ・ 協議 ・ 成果の共有 ・ 課題整理 ・ 指導カリキュラム実践 ・ 自分事として捉える指導方法研究と評価・改善 ・ 中間報告会1次案内作成 ・ 家庭・地域との連携実施 ・ 中間報告会2次案内作成 ・ 2年次中間報告会実施 ・ 2か年の取組評価 ・ 3年次に向けた計画・準備 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業支援 ・ 中間報告会支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業支援 ・ 中間報告会支援 ・ 全体アドバイス
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内研修、授業研修の実施 ・ 指導カリキュラム完成 ・ 自分事として捉える指導方法確立 ・ 研究紀要作成 ・ 最終報告会1次案内作成 ・ 家庭・地域との連携実施 ・ 最終報告会2次案内作成 ・ 3年次最終報告会実施 ・ 家庭・地域との連携評価 ・ リーフレット作成 ・ 3か年の取組内容評価 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業支援 ・ 最終報告会支援 ・ 紀要とリーフレット作成支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業支援 ・ 最終報告会支援 ・ 全体アドバイス

1. 本情報モラル教育のテーマ「タブレットを大切に使うために気を付けることは何だろう。」

2. 学習過程

	教科等	学習指導内容
事前	生活科	○ 単元「あきとなかよし」において、教科書にある二次元コードを読みとり、秋の生き物などについて調べる。
本時	学級活動	○ タブレットを使うよさに気付き、それを大切に使うための方法について話し合うことを通して、大切に使うために気を付けたいことを決定する。
事後	図画工作科	○ 題材「くしゃくしゃしたらだいへんしん」において、自分の作品を写真に撮り、感想をまとめる。

3. 本題材で目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ○ コンピュータの起動や終了、写真撮影などの基本操作が理解できる。 ○ 身近なところから様々な情報を収集することができる。 ○ コンピュータなどを利用するときの基本的なルールが理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相手を意識して、わかりやすく表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報の活用を振り返り、良さを見付けようとする。 ○ コンピュータなどを利用するときの基本的なルールを踏まえた行動をとろうとする。

4. 題材「タブレットをじょうずにつかおう」

【[知恵を磨く領域] セキュリティ基礎知識】

5. 児童の実態と題材設定の理由

GIGA スクール構想により、1人1台のタブレット端末を活用した個別最適な学びが求められている。本学級では、授業や学校生活に慣れてきた後期から、タブレット端末を使い始めた。二次元コードを読み込んで情報を閲覧することを主に活用している。子供たちはタブレット端末を使うと楽しいという思いや特別感を抱いているため、持ち運びや使い方がとても丁寧で、大切に使用している様子が見られる。しかし、本校での昨年度の破損件数は少なくないため、タブレット端末を使うことに慣れていくと不注意による破損の危険性が高まっていくのではないかと考えられる。そのために、1年生というタブレット端末の使い始めの入門期に、破損につながる使い方を知り、大切に使うという意識を強くもつことができるようにする。

そこで、本題材では、他学年の児童がタブレット端末を使っている様子や実例を提示し、タブレット端末を使うよさに気付かせたり、タブレット端末が壊れると困ることが多くあるため、タブレット端末を丁寧に扱うことの大切さを気付かせたりする。そして、破損の原因となる使い方を見付け、その解決方法を話し合う活動を通して、自主的にタブレット端末を大切に扱う態度を身に付けさせたい。これらを踏まえ、今後タブレット端末の使用機会が増え、学校生活にも慣れてきたタブレット端末使い始めの入門期に、本題材を取り上げることは価値高いと考える。

6. 本時のねらい

タブレット端末を使うよさや適切に扱うことの大切さに気付き、それを壊してしまう原因や、その解決方法の話し合いを通して、自主的に情報機器を大切に扱う態度を養う。

7. 本時で扱う情報モラル

情報モラルにつながる基本的なタブレットの扱い方

8. 本時学習過程

段階	学習活動・内容	指導上の留意点
つかむ	<p>1. 生活科「あきとなかよし」の学習でタブレットを使用したことを想起したり、他学年のタブレット活用を見たりして、タブレットを使うことのよさを感じ、タブレットを使うために大切に扱わないといけないと気付く。</p> <p>(1) タブレットを使用したことや、他学年の活用を見て、タブレットでやってみたいことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットで写真を撮ってみたい。 ・タブレットでまとめてみたい。 <p>(2) 壊れたら使えなくなることから、自分たちが大切に扱っていたか振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・片手で持っていたことがあった。 ・落としそうなことがあった。 <p>2. 本時のめあてをつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時に行った二次元コードを読み取って色々な資料を見れることやタブレットを使うことでたくさんことができるようになることを感じることができるようになるために、いくつかの例を提示する。 ○ タブレットは壊れたら使えなくなるため、大切に扱うことが必要だと気付くことができるようになるために、今までに壊れそうな使い方をしていなかったか想起させる。
<p>タブレットをたくさん使っていくための、使い方を考えよう。</p>		
さぐる・見つける	<p>3. 事例をもとに、タブレットを使用するときに、気を付けることを話し合い、発表する。</p> <p>(1) タブレットを使っている様子の絵を見て、使い方に問題がある箇所を見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机からタブレットがはみ出している。 ・片手で持っている。 ・画面を強くタッチしている。 ・違うものを見ている。 ・タブレットを落としている。 <p>(2) タブレットを壊さないように使うためには、どうすればよいか、解決策を話し合い、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机の真ん中にタブレットを置く。 ・両手でしっかりと持つ。 ・画面は優しく触る。 ・タブレットを触らずに話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多くの問題に気付かせるために、使い方が問題である箇所にチェックを付けさせ、時間を区切ってペアの友達と交流する機会を設ける。 ○ 見つけた問題点がなぜ問題なのかを考えさせるために、発表するときはどうして正しくないのかを問う。 ○ よりよい解決策が見つけれられるようになるために、グループで話し合いをさせる。 ○ 解決策が問題点の反対の言葉にならないようにするために、導入で出た課題が解決できるかを問う。
決める	<p>4. 今後どのようなことに気を付けたいか4つの中から決め、タブレットの使い方カードに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強くタッチしていたから「やさしくさわる」を頑張りたい。 ・端っこに置くことがあったから「まんなかにおく」を頑張りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ タブレット端末を使う上でどのようなことに気を付けたいかを自己決定することができるようになるために、実物を使って実際に使う機会を設ける。 ○ 全てができていて感じている児童には、これからも1番頑張っていきたいことを選ばせる。
まとめる	<p>5. 本時学習の感想を書き、まとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ これから使い方に気を付けて、どんどん使っていきたいという意欲をもたせる。

1. 本情報モラル教育のテーマ「健康な生活を送るためにメディアとの関わり方を考えよう。」

2. 学習過程

	教科等	学習指導内容
事前	保健	○ 単元「けんこうな生活」において、自分の1日の生活リズムを振り返る場面を位置付け、その問題点に気付くことで、本題材との関連の起点を図る。
	道徳	○ 題材「ぼくを動かすコントローラー」において、日頃の生活で自分自身をコントロールできなかった経験を想起させ、自ら考えて度を越さない節度のある生活をしようとする心情を育てる。
本時	学級活動	○ メディアと関わる問題点とその解決方法を話し合う活動を通して、メディアの長所と短所が生活に及ぼす影響を理解し、メディアとの上手な関わり方について自己決定できるようにする。
事後	道徳	○ 題材「ちゃんとつかえたのに」において、約束を破って後悔する主人公の気持ちから、約束を守ることが安心、安全に生活するために必要なことに気付き、進んできまりを守ろうとする心情を育てる。

3. 本題材で目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動、食事、休養及び睡眠をバランスよくとることが大切であることを理解できる。 ○ 度を越さない節度ある生活をするものの大切さを理解できる。 ○ メディアと自分の関係の正しい使い方を理解できる。 ○ 約束やきまりを守ることの大切さを理解することができる。 ○ キーボードなどによる文字の正確な入力を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 健康に関わる解決方法を考え、伝えあうことができる。 ○ 規則正しい生活についての自分の判断で考えることができる。 ○ メディアの問題点や解決方法を話し合い、意思決定できる。 ○ 約束を守るとは、家族や友人と良好な関係を築く上で、大切であると考えられる。 ○ 課題を見付け、どのような手順を組み合わせが必要かを考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の1日の生活を振り返り、進んで健康な生活を目指そうとする。 ○ 節度ある生活をしていこうとする。 ○ 自主的に課題解決に取り組み、実践しようとする。 ○ 進んで約束やきまりを守ろうとする。 ○ コンピュータなどを利用するときの基本的なルールを踏まえ、行動しようとする。

4. 題材「わたしとメディア」 【[知恵を磨く領域] 心身の健康】

5. 児童の実態と題材設定の理由

メディアは上手く付き合えば恩恵を与えてくれるものであるが、生活時間の中で費やす時間をコントロールできなくなれば、心身へ悪影響を及ぼすものでもあるということを理解することができるようにしたい。そして、自分が利用するメディアの視聴時間や使い方の心構えについて話し合うことで、自ら主体性をもってメディアを活用していく意識をもつことができるようにする。これらを踏まえ、自分の生活を振り返り、よりよい生活を築こうとする意欲が高まるこの期に本題材を取り上げることは価値高いと考える。

6. 本時のねらい

子供たちの周りには様々なメディアが存在し、使い方によっては恩恵をもたらすが、長時間の利用が生活や心身の健康に影響を及ぼすことを知り、節度をもって正しく活用していこうとする態度を養う。

7. 本時で扱う情報モラル

メディア利用と健康的な生活のバランス

8. 本時学習過程

段階	学習活動・内容	指導上の留意点
つかむ	<p>1. 事前アンケートの結果を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちはさまざまなメディアを使っている。 ・ゲームや動画視聴にかなりの時間を費やしている。 ・時間を守れなかったなど困った経験がある。 <p>2. 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;">メディアとの上手な関わり方について考えよう。</div>	<p>○ メディアの使い方によっては、心身に悪影響を与えていることに気付くことができるようにするために、アンケート項目の中から「ゲームや動画視聴に費やす時間」「メディアを使っていて困った経験」がわかるように結果をまとめておく。</p>
さぐる・見つける	<p>3. DVD「もっと見たいな」を視聴し、問題点と原因、解決方法を考え、話し合う。</p> <p>○ 問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の部屋でかくれて使ってしまったこと ・パスワードを勝手に使ってしまったこと ・家庭のルールを破ってしまったこと ・動画を見続けてしまったこと <p>○ 原因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画が楽しい内容だったから ・ダメだとわかっているもやってしまったこと ・自分の健康のことを考えなくなった <p>○ 解決方法（メディアのよさと活用の仕方）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決められた約束を守るとよい。 ・家の人とルールを話し合うとよい。 ・自分の健康のことを考えて、メディアを活用するとよい。 ・生活の中で優先順位をつけるとよい。 	<p>○ 共感的に捉えることができるようにするために、同じ経験をしたことがないかを問う。</p> <p>○ 視聴前に登場する子供がメディアと上手に関わるができなかった「問題点」や「原因」を考えながらDVDを見ることができるようにするために、観る観点を与える。</p> <p>○ 問題点・原因・解決方法として何が挙げられるのかを把握できるようにするために、子供たちの発言を視覚的に分かりやすく構造的に板書する。</p> <p>○ 「やめることができない理由は、メディアにどんな特徴にあるのか」と発問する。また、自分の生活との重なりにも気付かせる。</p> <p>○ メディアが悪いのではなく、メディアのよさと上手に関わることによって、自分たちは恩恵を得ることができることに気付くことができるようにするために、家庭でルールが決まっている児童の体験を聞かせる。</p>
決める	<p>4. 今後どのようにメディアと関わっていったらよいかを考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決めたルールを守る。 ・時計をセットして、家の人に声をかけてもらう。 ・時間になったら、家の中のゲーム機を預ける。 ・暗い所で本を読まないようにする。 	<p>○ 自分の意見を強化・付加・修正し、よりよい今後の目標を立てることができるようになるために、友達の考えと自分の考えを比べながら話し合わせる。</p>
まとめる	<p>5. 発表の内容を参考にしながら、自分の今後の目標をワークシートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアを使うときの目標を計画表に記入する。 ・友だちにも自分の目標を発表する。 	<p>○ 今日の学習を家庭でも話題にすることができるようにするために、計画表を持ち帰ることができるよう準備する。</p>

1. 単元名「正しく使おう！ぼくたち・わたしたちのスマートフォンデビューに向けて！」

2. 単元設定の理由

本単元は、探究課題の一つとして例示されている「現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題」を踏まえて構想した単元である。

本単元では、スマートフォンを教材の中心として扱う。これは、高度に情報化した社会の象徴といえるツールとなっている。情報検索に限らずゲームやSNS、電子決済など、数えきれないほど機能化している。一方で、多機能化した

スマートフォンは、人権侵害・金銭トラブル・詐欺などの事件を引き起こす温床ともなっている。こうした両側面をもっているスマートフォンは、子供たちには、大変魅力的に映っている。本校5年生においても、自分専用のスマートフォンを所持している小学生の割合は、男子が68%、女子が89%となっている。これに伴って、学校でもスマートフォンに起因した問題行動が増加し、正しい知識を育む必要性を感じる。

こうした背景にあって、スマートフォンを教材の中心と据えることは、スマートフォンの多機能化が私たちの生活や社会にもたらす恩恵と問題点を考えることを通して、今後の情報技術の進化に合わせて、将来にわたる自分の生き方を見つめ考える契機となる上で価値高いと考える。



- 課題③ これまでの学習の成果をまとめて、コラボイベントを成功させよう。(8)
- 課題② スマートフォンには、どんなよさと問題点があるのか調べよう。(9)
- 課題① スマートフォンには、どんな魅力があるのだろうか。(2)

3. 単元の目標

スマートフォンのもつ魅力や恩恵、問題点を調べる活動を通して、情報技術の特性を理解するとともに、未成年であっても情報社会の一員として生活していることに気付き、これからの情報社会での行動に責任をもって生活することができるようにする。

4. 本単元で目指す具体的な資質・能力

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
① スマートフォンの機能が私たちの生活に恩恵をもたらす一方で、様々な問題を生み出していることに気付くことができる。 ② スマートフォンがもたらす恩恵と問題点について、その機能や自分の生活環境に応じた調査方法で調査することができる。 ③ スマートフォンを通じた探究的な学習が、情報社会との適切な関わり方に繋がることに気付くことができる。	① スマートフォンに関わる社会問題から身近な課題を発見し、その解決に向けて、自分にできることを考えることができる。 ② 必要な情報を、インターネット検索やGTへの取材など、目的に応じた方法を選びながら収集することができる。 ③ 異なる情報から共通点や差異点を見つけて、分類したり関連付けたりすることができる。 ④ スマートフォンの恩恵や問題点、自分の関わり方について、表現の目的に合わせて、分かりやすくまとめることができる。	① スマートフォンのもたらす恩恵と問題点を自分の体験と関連付けて考え、これからの自分の生活を見直そうとする。 ② スマートフォンに関する情報収集や保護者への発信活動に向けて、友達と分担したり互いの考えのよさを生かしたりして、問題の解決に向けて、協働的に取り組もうとする。 ③ スマートフォンのもたらす恩恵と問題点を踏まえながら、情報社会の一員として適切に関わろうとする。

5. 単元の展開

学習課題・時数	学習活動・ねらい	知	思	態
<p>スマートフォンには、どんな機能があるのだろう。(2)</p> <p>正しく使おう！ぼくたち・わたしたちのスマートフォンデビューに向けて！</p>	<p>[課題の設定]①</p> <p>○ 小・中学生のスマートフォンの所持率の資料から、自分たちがスマートフォンを持ちたい理由を話し合い、学習課題をもつ。</p>	①	①	
	<p>[情報収集]</p> <p>○ 自分や家族のスマートフォンやタブレット端末を使って調べ、スマートフォンが持っている機能について必要な情報を集める。</p>		②	
	<p>[整理・分析]①</p> <p>○ 1台のスマートフォンが、多様な情報機器の代替性や他者とつながれる簡便性などを備えていることを捉える。</p>		③	
	<p>[まとめ・表現]</p> <p>○ スマートフォンを用いてやりたいことを出し合い、スマートフォンが自分たちの生活に大きく関わっている情報機器であることを捉える。</p>		④	①
<p>スマートフォンには、どんなよさと問題点があるのか調べよう。(7)</p> <p>本時</p>	<p>[課題の設定]①</p> <p>○ スマートフォンを使用することによって生じる問題点とスマートフォンのよさを調べようという学習課題をもつ。</p>	①		
	<p>[情報収集]⑤</p> <p>○ スマートフォンの機能ごとに、インタビューやケーススタディなどの方法を用いて、それらがもたらすよさと問題点についての情報を集める。※「SNS」「ゲーム」「買い物」「情報検索」などの視点</p>	① ②	②	①
	<p>[整理・分析・まとめ]①</p> <p>○ これまでの調査活動で集めた情報をもとにして、情報技術のもつ特性から、スマートフォンのよさと問題点を整理する。また、それらをもとに、スマホマスターとして、自分達も安心して使用できるかについて話し合い、考えをまとめる。</p>		② ③	③
<p>これまでの学習をまとめて、保護者に向けてスマートフォンの正しい使い方を伝えよう。(8)</p>	<p>[課題の設定]①</p> <p>○ これまでの学びを振り返り、保護者に向けて正しくスマートフォンを使うためにまとめた内容を発信するという学習課題をもつ。</p>			
	<p>[情報収集]②</p> <p>○ スマートフォンに関するこれまでの学びから、テーマを選択したり適切な方法を決めたりして、発信の計画を立てる。</p> <p>※テーマ ・「よさ」と「問題点」のまとめ ・キッズスマートフォンの機能</p> <p>※方法 ・タブレット端末を用いて報告 ・ポスターやスライドショーや動画の撮影など</p>	②	②	
	<p>[整理・分析]④</p> <p>○ 計画に合わせて準備を進め、スマートフォンに関するこれまでの学びから保護者に対して適切な伝え方を整理する。</p>		④	②
	<p>[まとめ・表現]①</p> <p>○ これまでの学習を振り返りながら、これからの自分とスマートフォンの関わり方についてまとめ、保護者に発信する。</p>	③		③

※評価方法は、省略。

6. 本時のねらい

情報技術のもつ特性から、スマートフォンのもつよさと問題点を出し合い、整理する活動を通して、より有効的なスマートフォンの使い方について、まとめることができるようにする。

7. 本時で扱う情報モラル

情報機器の特性と正しい使い方

8. 本時学習過程

段階	学習活動・内容	指導上の留意点																
導入	<p>1 前時までの振り返りをする。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<p>○ 前時までにまとめた資料から、よさと問題点を出せるようにする。</p>																
	<p>スマートフォンのもつよさと問題点から、これからのスマートフォンの使い方について考えよう。</p>																	
展開	<p>3 スマートフォンのもつよさと問題点について出し合い、整理する。</p> <p>○ よい点</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>SNS</th> <th>ゲーム</th> <th>買い物</th> <th>情報検索</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自分の趣味などを世界中に発信できる。</td> <td>自分の好きな時に気軽にできる。</td> <td>お店へ行かなくても自分の欲しい物を買うことができる。</td> <td>様々な情報を短時間で調べることができる。</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 問題点</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>SNS</th> <th>ゲーム</th> <th>買い物</th> <th>情報検索</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>意図せず、個人情報流出してしまうことがある。</td> <td>課金し過ぎることがある。</td> <td>自分の思った物と違う物が届くことがある。</td> <td>誤った情報を鵜呑みにしてしまうことがある。</td> </tr> </tbody> </table>	SNS	ゲーム	買い物	情報検索	自分の趣味などを世界中に発信できる。	自分の好きな時に気軽にできる。	お店へ行かなくても自分の欲しい物を買うことができる。	様々な情報を短時間で調べることができる。	SNS	ゲーム	買い物	情報検索	意図せず、個人情報流出してしまうことがある。	課金し過ぎることがある。	自分の思った物と違う物が届くことがある。	誤った情報を鵜呑みにしてしまうことがある。	<p>○ 情報機器の特性を整理できるようにするために、よい点と問題点を、SNS、ゲーム、買い物、情報検索の4つのグループに分けて板書をする。</p> <p>○ スマートフォンのよい点を出した後、問題点があることにも気付くことができるようにするために、「いいことばかりかな」と問い返す。</p> <p>○ スマートフォンの使い方について深く考えることができるようにするために、よい点と問題点を出し合った後、それを踏まえた上で自分のスマートフォンの使い方をまとめさせる。</p>
	SNS	ゲーム	買い物	情報検索														
	自分の趣味などを世界中に発信できる。	自分の好きな時に気軽にできる。	お店へ行かなくても自分の欲しい物を買うことができる。	様々な情報を短時間で調べることができる。														
	SNS	ゲーム	買い物	情報検索														
意図せず、個人情報流出してしまうことがある。	課金し過ぎることがある。	自分の思った物と違う物が届くことがある。	誤った情報を鵜呑みにしてしまうことがある。															
<p>4 よさと問題点を踏まえたうえで、これから自分がどうスマートフォンを使っていきたいか考え、グループでまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物をする際には、サイズや色などよく確認をして購入する。 ・ SNS で発信する前に一度確認し、不必要に個人情報が流出しないようにする。 	<p>○ スマートフォンの使い方について具体的に考えることができるようにするために、グループで話し合わせることで具体的に表現することができるようにする。また、発表する際には、自分たちがそうした理由や背景を説明できるようにする。</p>																	
<p>5 グループで共有した意見を発表する。</p>																		
<p>6 学習のまとめを行う。</p>																		
<p>7 本時の振り返りをする。</p>	<p>スマートフォンを使う時には、よさと問題点をよく理解し、正しく使用していくことが大切である。</p>	<p>○ グループで考えをまとめる。</p>																
終末																		

第1学年 道徳科学習指導案

指導者 3組 花田 恵子

1. 本情報モラル教育のテーマ「正しいネットコミュニケーションを学び、情報モラルの力を向上させよう」
2. 学習過程

	教科等	学習指導内容
事前	学級活動	○ 短文投稿サイトの体験版を使って、使用する際の注意点を考えることができるようにする。
本時	道徳	○ 資料「短文投稿サイトに友達の悪口を書くと」を通して、ネットコミュニケーションにおける友情や信頼を深めようとする心情を育てるようにする。
事後1	学級活動	○ SNS やインターネットから情報を収集したり、発信したりするときに必要な知識や技能を身に付けることができるようにする。
事後2	総合的な学習の時間	○ 情報機器を使った様々な職業を調べる活動を通して、伝える相手を考えながら情報を正しく収集したり、調べ学習の発表や学校ホームページ等を通して発信したりすることができるようにする。

3. 本主題で目指す資質・能力

よりよく生きるために必要とされる道徳的価値の理解	物事を多面的・多角的に考える思考・判断・表現	これまでの自己を見つめよりよく生きようとする態度
<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報を発信するとき、その影響も考えて責任をもって使うことを理解することができる。 ○ インターネット上のコミュニケーションは不特定多数の人に公開される場合もあることを理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主人公の友達を思う気持ちを話し合い、悩みや葛藤に対する考えを深めようとしている。 ○ 相手に伝わるように、伝えたい情報を取捨選択しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ネットコミュニケーションにおける自分の行為や考え方を振り返り、自身の課題や目標を見付けようとしている。 ○ ネット上の情報を吟味し、正しく活用する力を身に付けようとしている。

4. 主題名「情報モラルと友情」(B-8 友情、信頼) 【[心を磨く領域]】 ネットコミュニケーション
資料名『短文投稿サイトに友達の悪口を書くと』 (出典：東京書籍・新訂新しい道徳1)

5. 児童の実態と主題設定の理由(生徒観・教材観)

本学級の生徒たちは、ネット上で悪口を書き込むことは影響力や危険性があると認識している。しかし、スマートフォンやタブレット端末等を使って、人間関係のトラブルや人権を脅かすような使い方を事例も発生している。家庭においても、今後生徒たちが正しく安全に SNS やスマートフォンを使えるようになってほしいが、保護者の知識だけでは不安や十分に対応できないといった現状があることもわかった。ネット上での悪口を書き込むことは、人を傷つける行為と理解しているが、その行為を目の当たりにした際、友達にいけないことだと忠告し合えるまでの関係性に至っていないという課題がある。

こうした背景より、中学校道徳科「B-8 友情、信頼」において、悩みや葛藤を通して友情を深め、友情とは何か、そのよさについて理解し、より豊かな人間関係が築かれるような心情を育みたい。また、本教材は、生徒にとって実生活で起きやすい場面を通して、情報に対する知識をどのように使い、友人関係を築いていくかという姿を示している。さらに、情報を発信したり受け取ったりする立場から、生徒の見方や考え方を育てていこうとするものである。

6. 本時のねらい

友達に注意・助言するかどうかという悩みや葛藤をとともに乗り越え、友情を深めていくことの大切さに気づき、より一層深い友情を構築していこうとする道徳的心情を育てる。

7. 本時で扱う情報モラル

インターネット上のコミュニケーション

8. 本時学習過程

段階	学習活動・内容	指導上の留意点
導入	<p>1 「自分にとって友達はどういう存在か」について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちをわかってくれる ・自分を元気づけてくれる ・勉強を教えてくれる ・喧嘩する ・嫌なことを言う ・自分の気持ちをわかってくれない など <p>めあて 友達とよい関係を築くために、何が大切かを考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達関係は、いいことばかりではなく、悩みや葛藤もあることを気付くことができるように、生徒のアンケート結果をテキストマイニングで提示する。
展開前段	<p>2 資料を読んで、考えたことを話し合う。</p> <p>(1) 「う、うん、そうだね。」と言ってしまったコウタの心情について話し合い、自分だったらどうするかについて考える。</p> <p>自分がコウタの立場だったらどうするか。</p> <p>【注意することができる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・炎上して大変なことになるから ・危険から友達を守りたい ・他の友達と一緒に注意する <p>【注意することができない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もし自分の悪口も書かれたら怖いから ・感情的だと、何をするかわからないから <p>【どちらともいえない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意したいがどう伝えたらよいか分からない ・その時には言えないけど、イチロウが落ち着いたら言えるかもしれない ・自分には関係ないから 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大変なことになると分かっているが、どうしても友達に注意できずに悩んだり葛藤したりする気持ちに気付くことができるように、コウタの気持ちを問う。 ○ 多面的・多角的な視点で考えることができるようにするために、立場が異なる生徒と交流する場を設定する。 ○ 生徒の発言からコウタが身に付けている情報モラルの知識や技能を確認する。 <p>情報モラルの知識や技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が見る（公開性） ・個人情報（セキュリティ） ・コピーされる（拡散） ・記録が残る（記録） ・炎上する（ネットコミュニケーション） <p>※生徒から情報モラルに関する発言が見られた際に、知識や技能を確認する。</p>
展開後段	<p>(2) 悩みや葛藤を乗り越えて友情を深めることの大切さについて話し合う。</p> <p>◎ どうしてコウタは、なかなかねむれなかったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イチロウがネットで非難されたり、攻撃されたりするのではないか ・炎上を引き起こすのではないか <p>(3) 教師の説話、生徒の日記、文章から聞いたり読んだりして、これまでの自分を見つめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の中に友達を大切にしようとする心情があることに気付く 	<ul style="list-style-type: none"> ○ イチロウを心配に思うコウタの気持ちに気付くことができるように、「投稿してないよ」と言われた場面の気持ちを問う。 ○ 友達が傷つかななくてよかったという安心した気持ちを押さえるために、「もしイチロウが投稿していたら、コウタはどう思っただろう」と問う。 ○ 議論を通して、友達について考えたことが大切であることに気付くことができるように、教師の説話を行う。
終末	<p>3 自己の生き方について考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 友達とよい関係を築くためにこれからどのようなことを大切にしていきたいかを考える。 ・一緒にいて楽しいのが友達だと思っていたけど、時には言いにくいことも言い合える友達関係をつくりたい。 ・よい関係をつくるために、自分も友達に何か注意されることがあったら、しっかりと受け止めて、自分を振り返ることが必要だ。 ・自分自身や大切な友達が、これから SNS のトラブルに巻き込まれないように、もっと SNS のことを学習したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相手の立場に立って考え、善悪を判断し、友達のためによい方へ導き、心から信頼できる友情を育む大切さを押さえる。 ○ SNS で友達関係が簡単に壊れることを知り、上手に使い友人関係を築く必要があることを押さえる。 ○ 生徒の振り返りから、SNS を使うための知識や技能の必要性を引き出し、次時につなげる。

第2学年 学級活動(2)学習指導案

指導者 4組 櫻井 一輝

1. 本情報モラル教育のテーマ 「情報を正しく受け取り、正しく発信しよう。」
2. 学習過程

	教科等	学習指導内容
事前	総合的な学習の時間	○ 「修学旅行の班別自主研修」の計画作成において、インターネットによる情報収集の方法について理解する。
	学級活動	○ 「SNS への適切な関わり方」において、「模擬 SNS」シミュレーションゲームを用いて、普段の情報の受け取り方や発信の仕方について振り返る。
本時	学級活動	○ 「SNS への適切な関わり方」において、デジタルメディアの特性を知り、今後どのような投稿であればシェアしてよいのかについて話し合う。さらに、今後自分がどのように情報への適切な関わり方を意思決定する。
事後	総合的な学習の時間	○ 「職場体験学習のまとめ活動」において、学校外で学んだ情報や写真を用いてレポートを書く活動を位置付け、情報を発信し、本題材の実践の場となるようにする。

3. 本題材で目指す資質・能力

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
SNS と自分との関わり方についての諸課題の改善に向けて取り組むことの大切さを理解し、同じ情報でも自分とは違う解釈や意見があること、SNS 上の情報はすべて正しいものとは限らないので、投稿前には虚偽がないか確かめること、発信内容はインターネット上に永久に残ること等の知識や行動の仕方を身に付けることができる。	SNS と自分との関わり方についての諸課題を理解し、SNS の使い方について自分のルールを決めて実践することができる。	身近なメディアに関する自己の生活をよりよくするために、課題解決のための目標設定を行ったり自主的に課題解決に取り組んだりすることで、自他の権利を大切にしてい、よりよい人間関係を形成しようとしている。

4. 題材 「SNS への適切な関わり方」 【[知恵を磨く領域] 信頼性や危機回避】

5. 生徒の実態と題材設定の理由

本学級の生徒に行った事前アンケートによると、97%の生徒が普段から SNS を使っている。次に、28%の生徒が「SNS を用いて情報を投稿したことがある」、42%の生徒が「情報を共有したり、拡散したりしたことがある」と答えている。その主な目的は、「新しい情報を得るため」、「自分と同じ趣味や興味をもつ人とつながることができるため」であった。一方、SNS に対して「トラブルが多い」、「正しい情報を見極めることが難しい」と答えた生徒が存在し、情報への不信感をもっていることが分かった。また小学生の頃にコミュニケーションにまつわるトラブルを経験した生徒もあり、発達の段階や利用実態に応じた指導が必要である。

こうした背景にあって、これまでに日常生活や各教科場面で表層的に学習してきた「様々な情報源から得たことの確かさや有用性を判断するとともに、有害なものは無視すること。」(信頼性や危機回避) (を深く理解する機会を位置付けたい。SNS には有益な情報を入手できる反面、多くの発信者は無責任な個人であるため、デマや自分の憶測や希望的観測だけの無責任な情報も多数あることを認識しておく必要がある。気軽に情報発信できる SNS 上の、信頼できる情報とそうでない情報をどう判断するかは、情報モラル教育上の大きな課題である。この学習では「模擬 SNS」シミュレーションゲームを通して、同じ情報でも自分とは違う解釈や意見があること、SNS 上の情報は全て正しいものとは限らないので、投稿する前には虚偽がないかを確認すること、発信内容はインターネット上に永久に残ることなど、SNS への適切な関わり方を身に付けさせることを目指す。

6. 本時のねらい

「模擬 SNS」シミュレーションゲームを通して、情報の影響力や信頼性、多様性や相互理解などの視点から情報を受け取り、発信・拡散することに伴う責任や判断基準を理解し、情報に適切に関わろうとする態度を養う。

7. 本時で扱う情報モラル

情報の信憑性、情報発信に伴う判断と責任

8. 本時学習過程

段階	学習活動・内容	指導上の留意点
つかむ	<p>1. 前時を振り返り、本時のめあてをつかむ</p> <p>(1) 前時の疑似 SNS 体験活動の体験結果を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォロワー数の増減 ・投稿の真偽 <p>(2) 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">疑似 SNS 体験活動の結果について話し合い、情報の取り扱いについて考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ フォロワー数の増減や投稿の真偽の傾向、シェアの判断との関係性に気付くことができるように、グラフや教を用いて視覚的に結果を提示する。 ○ 自分の判断基準や価値観を明確にするために、友達と結果を見て気付いたことや感じたことを交流する。
さぐる・見つける	<p>2. 疑似 SNS 体験活動の結果をもとに話し合う。</p> <p>(1) 友達の結果と自分の結果を比較して気付いたことや感じたことを交流する。</p> <p>【信頼度の根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発信者が、専門家・詳しい人である投稿 ・発信日時が、最近のもの ・公式マークがついているもの ・信用できるもの <p>【シェアの判断の根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面白いと思ったから ・正しい情報だから広めたいと思った ・嘘か本当かわからないから。 <p>(2) 投稿をシェアすることにより、どのような影響が出ると考えられるかについて意見を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の知識を増やすことができる。 ・自分と同じ考えの仲間を増やすことができる。 ・異なる考えにあまり触れない。 ・フェイクニュースの拡散・暴走 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他の意見を共有し、情報の受け止め方が多様であることに気付くことができるように、学習支援ソフトを準備する。 ○ 多様な人々の価値観から、新たな自分の価値観を構築できるように、判断がわかれた投稿内容を比較提示する。 ○ 考えを深められるようにするために、無自覚な投稿やシェアにより実際に起きている社会問題等を取り上げる。 ○ 投稿をシェアすることによるよい効果もあることに気付くことができるように、情報の取り扱いに対して積極的な姿勢を促すようにする。
決める	<p>3. 投稿をシェアする際にどのようなことに気を付けることができるか意思決定をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投稿の真偽をきちんと見極めたうえで判断するようにする。 ・安易な理由で間違った情報を拡散しない。 ・シェアする前にもう一度考える。 ・情報を受け取るだけでなく、発信する立場としてもよりよい活用ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ SNS の投稿体験を自分事にするようにするために、自分が投稿する場面を具体的に言葉で表現する場を設ける。
まとめる	<p>4. 本時学習の感想を書き、まとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の活動が実践につながるようにするために、次時では情報を発信する立場になることを説明する。 ○ 情報モラル教育の重要性を広める役割を担うために、自分が学んだことや気付いたことを友達や家族に伝えるよう促す。

情報モラルに関する年間指導計画 第1学年 一筑紫野市立原田小学校一

	「心を磨く領域」		「知恵を磨く領域」		
	(ネットコミュニケーション)	(権利と法の遵守)	(信頼性や危機回避)	(心身の健康)	(セキュリティ基礎知識)
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が伝えた言葉は、相手の心に響いたり、残ったりすること ○相手の気持ちを考えて、気持ちのよい言葉でコミュニケーションを図ることが大切なこと。 ○うそや不確かなことは他の人に伝えてはいけないこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○他の人がつくったものを勝手に自分のものにして、使ったりしてはいけないこと ○他の人の顔や姿の写った写真や動画を勝手に使ったりしてはいけないこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○よく分からないことは、周りの人に聞くなどして確かめることが大切であること ○インターネット上にあるものでも正しくない情報があること ○インターネット上にあるものの中には、お金がかかるものがあること 	<ul style="list-style-type: none"> ○規則正しい生活に影響を与えないように、コンピュータやゲームをすること 	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットの正しい使い方を身に付けること。 ○友達のタブレット等を勝手に使ってはいけないこと ○自分の友達の氏名や住所、電話番号などを安易に教えてはいけないこと
各教科	<ul style="list-style-type: none"> □国語科「てがみでしらせよう」 ※丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて手紙を書き、間違いがないか読み返す。 □国語科「ききたいな、ともだちのはなし」 ※好きな本についての話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶ。 □国語科「たぬきの糸車」 ※物語の好きなどをグループで伝え合う。 □国語科「ずうっと、ずうっと、大すきだよ」 ※心に残ったことを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> □国語科「ことばを見つけよう」 ※クイズの問題にする言葉をグループで決めて、クイズカードを作る。 □国語科「これはなんでしょう」 ※クイズの問題にするものを自分で決めて、クイズを作る。 □図画工作科「みてみて、いっぱいつくったよ」 ※既製のものを真似せず、考えて作る。 □図画工作科「あそぼうよ、パクパクさん」 ※既製のものを真似せず、考えて作る。 	<ul style="list-style-type: none"> □国語科「いいこといっぱい、一年生」 ※写真を見たり、家の人に聞いたりして、アルバムに載せたい事柄を選ぶ。 □国語科「どうぶつの赤ちゃん」 ※調べたい動物の赤ちゃんについて書かれた本を読み、赤ちゃんの様子を調べる。 		<ul style="list-style-type: none"> □図画工作科「くしゃくしゃしたらだいへんしん」 ※形や色の組み合わせを考えて作り、タブレット端末で作品を撮影し、友達と見合う。
生活科	<ul style="list-style-type: none"> □「げんきにそだてわたしのはな」 ※これまで育てたあさがおの花の成長に気付き、花の色、数などを学級のみんに伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> □「いくぞ！がっこうたんけん」 ※学校内のお気に入りの場所を見つけて教師と一緒に撮影する。 □「あそびばにでかけよう」 ※公園の施設や自然の様子を教師と一緒に撮影する。 	<ul style="list-style-type: none"> □「いきものだいすき」 ※身近な生き物について本やタブレットで調べ、生き物が変化し成長していることに気付く。 □「ふゆとなかよし」 ※昔遊びについてタブレットで調べ、遊び方のコツを知り、実践に結びつける。 		<ul style="list-style-type: none"> □「あきとなかよし」 ※正しくタブレットを使ってQRコードを読み取り、秋の生き物の様子を調べる。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> □資料名「ひつじかいのこども」 ※うそを一度でも付くと、多くの人に広がってしまい、周りからの信用をなくしてしまうことを理解し、うそをつかないで正直にしようとする。 			<ul style="list-style-type: none"> □資料名「ゆうたのへんしん」 ※規則正しい生活とそうでない生活を比較し、規則正しい生活をしないことは生活に大きく影響すると気付くことを通して、わがまましないで、規則正しい生活をしようとする。 	
特別活動				<ul style="list-style-type: none"> □題材名「スマートフォンやタブレットなどのつかいすぎ」 ※自分の生活を振り返り、動画の視聴やゲームをするときはルールを決めて、規則正しい生活を送る。 	<ul style="list-style-type: none"> □題材名「タブレットをじょうずにつかおう」 ※タブレットを使う良さや適切に扱うことの大切さに気付き、約束を守って使う。

情報モラルに関する年間指導計画 第2学年 一筑紫野市立原田小学校一

指導内容	「心を磨く領域」		「知恵を磨く領域」		
	(ネットコミュニケーション)	(権利と法の遵守)	(信頼性や危機回避)	(心身の健康)	(セキュリティ基礎知識)
指導内容	<p>○自分が伝えた言葉は、相手の心に響いたり、残ったりすること</p> <p>○相手の気持ちを考えて、気持ちのよい言葉でコミュニケーションを図ることが大切なこと。</p> <p>○うそや不確かなことは他の人に伝えてはいけないこと</p>	<p>○他の人がつくったものを勝手に自分の物にしたり、使ったりしてはいけないこと</p> <p>○他の人の顔や姿の写った写真や動画を勝手に使ってはいけないこと</p>	<p>○よく分からないことは、周りの人に聞くなどして確かめることが大切であること</p> <p>○インターネット上にあるものでも正しくない情報があること</p> <p>○インターネット上にあるものの中には、お金がかかるものがあること</p>	<p>○規則正しい生活に影響を与えないように、コンピュータやゲームをすること</p>	<p>○タブレットの正しい使い方を身に付けること</p> <p>○友達のタブレット等を勝手に使ってはいけないこと</p> <p>○自分や友達の氏名や住所、電話番号などを安易に教えてはいけないこと</p>
各教科	<p>□国語科「うれしいことば」</p> <p>※言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気付く。</p> <p>□国語科「お手紙」</p> <p>※場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像する。</p>	<p>□国語科「あったらいいなこんなもの」</p> <p>※あったらいいなと思う道具について、教科書に例示してある道具以外で想像を膨らませて考える。</p> <p>□国語科「お話の作者になろう」</p> <p>※自分の思いや考えが明確になるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。</p> <p>□図画工作科「くっつきマスコット」「かぶってへんしん」</p> <p>※既製の物を真似せず、考えて作る。</p>	<p>□国語科「メモをとるとき」</p> <p>※必要な事柄を集めたり、確かめたりする。</p> <p>□国語科「おにごっこ」</p> <p>※目的を持って文章や本を読み、分かったことが相手に伝わるように工夫し説明しようとする。</p>		
生活科		<p>□「とび出せ！町のたんけんたい」</p> <p>□「もっと知りたいたんけんたい」</p> <p>※校区内のお気に入りの場所を見つけてタブレット端末のカメラ機能で撮影する。</p> <p>□「町のすてきをつたえたい」</p> <p>※これまでの町探検で気付いたことを正確にまとめたり伝えたりする。</p>	<p>□「町のすてきをつたえたい」</p> <p>※これまでの町探検で気付いたことを正確にまとめたり伝えたりする。</p>		<p>□「とび出せ！町のたんけんたい」</p> <p>□「もっと知りたいたんけんたい」</p> <p>※校区内のお気に入りの場所を見つけてタブレット端末のカメラ機能で撮影する。</p>
道徳	<p>□資料名「おにいちゃんの電話」</p> <p>※相手によって話し方や言葉遣いを変えることは、相手が気持ちよく感じたり相手に失礼にならないようにしたりするために大切なことであることに気づき、気持ちのよい言葉遣いをする。</p> <p>□資料名「おばあちゃんお元気ですか」</p> <p>※離れて住む祖母とメールで繋がることで、祖母を大切にしている気持ちを伝えられることに気づき、父母、祖父母を敬愛し、家族を大切にす。</p>			<p>□資料名「なまけにんじゃ」</p> <p>※自分には自分の心の中の「なまけにんじゃ」に負けたくないという気持ちがあることに気づき、怠け心に勝って自分がやらなければならない勉強や仕事はしっかり行う。</p>	
特別活動	<p>□題材名「うれしいことば」</p> <p>※言われて嬉しく思う言葉と、悲しく思う言葉によって、友達との関係がどのようになるかを想像して言葉遣いについて考え、日常生活で実践する。</p>	<p>□題材名「かってにとっていいのかな」</p> <p>※肖像権について知り、守っていかうとする意欲をもつ。</p>			

情報モラルに関する年間指導計画 第3学年 一筑紫野市立原田小学校一

	「心を磨く領域」		「知恵を磨く領域」		
	(ネットコミュニケーション)	(権利と法の遵守)	(信頼性や危機回避)	(心身の健康)	(セキュリティ基礎知識)
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○インターネット上のコミュニケーション(携帯電話等)でも、相手の気持ちを思いやり、言葉を適切に選ぶこと ○情報を発信するときは、正しい内容を伝えられるよう心がけること ○インターネット上のコミュニケーションは、不特定多数の人に公開される場合もあること ○相手への影響を考えて行動すること ○協力し合ってネットワークを使うこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○著作権について知り、他者の著作物を使うときには許諾を得るなどのルールが必要であること ○肖像権について知り、他者の顔や姿の写った写真や動画を勝手に使ってはいけないこと(アップロードなど) ○自分の情報や他人の情報を大切にすること 	<ul style="list-style-type: none"> ○一つの情報を鵜呑みにせず、いくつかの情報を比較するなどして、正しい情報を得ることが大切であること ○インターネット上には、詐欺などの犯罪や害になるWebページがあることを知り、危険なものは見ないようにすること ○インターネット上のゲームでは、お金がかかる(課金)ものがあり、家庭のルールに従う必要があること ○情報発信や情報をやり取りする場合のルール・マナーを知り、守ること ○危険・不適切な情報に出会ったときは、大人に意見を求め、適切に対応すること ○情報には誤ったものもあることに気付くこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンピュータやインターネットの長時間の利用が、生活や心身の健康に影響を及ぼすことを知り、正しい使い方をすること ○健康のために利用時間を決め、守ること 	<ul style="list-style-type: none"> ○個人情報にはどのようなものがあるかを知ること ○不特定多数の人に、個人情報を知られることで、危険な目にあったり、人に迷惑をかけたことがあること ○タブレット等のIDやパスワードは、家の鍵と同じく大切であり、人のIDやパスワードを勝手に使ってはいけないこと ○認証の重要性を理解し、正しく利用すること
各教科	<ul style="list-style-type: none"> □国語科「もっと知りたい 友だちのこと」 ※友達の話積極的に聞き、必要なことを質問しながら、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを引き出そうとする。 ※友達の新たなよさや一面を知る。 □国語科『気持ちをこめて「きてください」』 ※手紙という書き言葉によるコミュニケーションに進んで興味をもち、相手や目的を意識して、よりよい書き方を検討しながら、伝えたい内容を明確にする。 □社会科「私たちのくらしと商店」など ※調べて分かったことや話し合ったことをもとに新聞にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> □国語科「引用するとき」 ※調べたことを報告する時には本などに書いてある言葉と自分の言葉とを区別する。 ※「」をつける。 ※元の文章をそのまま抜き出す。 ※何から引用したのかを示す。 □社会科「私たちのくらしと商店」 ※新聞にまとめる際、インタビューしたことや写真掲載について情報を大切に扱うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □国語科「引用するとき」 ※調べたことを報告する時には本などに書いてある言葉と自分の言葉とを区別する。 ※「」をつける。 ※元の文章をそのまま抜き出す。 ※何から引用したのかを示す。 □社会科「私たちのくらしと商店」 ※新聞にまとめる際、インタビューしたことや写真掲載について情報を大切に扱うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □体育・保健「けんこうな生活」 ※毎日を健康に過ごすには、運動・食事・休養および睡眠の調和のとれた生活を続けることが必要であることを理解する。 ※調和のとれた生活を続けるためには、周囲の環境が要因していることに気付き、生活環境を整えることの大切さを理解する。 	
総合	<ul style="list-style-type: none"> □単元名「3年生の学習じまん」 ※2年生にメッセージビデオを作成して、自分たちが知らせたいことを発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> □単元名「ちくしの荘の方と仲良くなろう」 ※インターネットで調べる時に肖像権というものがあるということを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> □単元名「わたしたちの町 原田」 ※五郎山古墳、原田の卵、伯東時、たなか油屋についてインターネットを正しく使って調べ活動を行う。 		
道徳	<ul style="list-style-type: none"> □資料名「心をしずめて」 ※感情的にならずに心を静めて、穏やかになることの良さに気付き、互いに相手の事を理解し、尊重しようとする。 □資料名「おじいちゃんとの楽しみ」 ※誰に対しても思いやりを持って、接しようとする。 			<ul style="list-style-type: none"> □資料名「ぼくを動かすコントローラー」 ※度を越さない節度のある生活をしようとする。 □資料名「ちゃんとつかえたのに」 ※約束やきまりを守ろうとすることができる。 	
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> □題材名「言葉遣いと心」 ※相手の気持ちを思いやった言葉遣いを考えて、「ふわふわ言葉」を使う。 □題材名「いじめについて考えよう」 ※いじめは、傍観者や観衆の人にも責任があることを理解し(いじめを見過ごさない)という強い心や意思をもつ。 			<ul style="list-style-type: none"> □題材名「わたしとメディア」 ※メディアが与える心身の影響について知り、これからメディアとの関わりについて考え、メディアと上手に関わっていかうと決めて実行する。 	

情報モラルに関する年間指導計画 第4学年 一筑紫野市立原田小学校一

	「心を磨く領域」		「知恵を磨く領域」		
	(ネットコミュニケーション)	(権利と法の遵守)	(信頼性や危機回避)	(心身の健康)	(セキュリティ基礎知識)
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○インターネット上で知らない人とのことでも、相手の気持ちを思いやり、言葉を適切に選ぶことコミュニケーションをとること ○インターネット上のコミュニケーション(携帯電話等)でも、相手の気持ちを思いやり、言葉を適切に選ぶこと ○情報を発信するときは、正しい内容を伝えられるよう心がけること ○インターネット上のコミュニケーションは、不特定多数の人に公開される場合もあること ○他者への影響を考えて行動すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○著作権について知り、他者の著作物を使うときには許諾を得るなどのルールが必要であること ○肖像権について知り、他者の顔や姿の写った写真や動画を勝手に使ってはいけないこと(アップロードなど) ○情報にも自分や他者の権利があることを知り、大切にすること 	<ul style="list-style-type: none"> ○一つの情報を鵜呑みにせず、いくつかの情報を比較するなどして、正しい情報を得ることが大切であること ○インターネット上には、詐欺などの犯罪や害になるWebページがあることを知り、危険なものを見ないようにすること ○インターネット上のゲームでは、お金がかかる(課金)ものがあり、家庭のルールに従う必要があること ○ルールやマナーについて知り、そのことに反する行為を絶対に行わないこと ○ルールやきまりを守ることの社会的意味を知り、尊重すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンピュータやインターネットの長時間の利用が、生活や心身の健康に影響を及ぼすことを知り、正しい使い方をすること ○健康を害するような利用の仕方を絶対に行わないこと ○自他の個人情報を第三者にもらさないこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○個人情報にはどのようなものがあるかを知ること ○不特定多数の人に、個人情報を知られることで、危険な目にあったり、人に迷惑をかけたことがあること ○タブレット等のIDやパスワードは、家の鍵と同じく大切であり、人のIDやパスワードを勝手に使ってはいけないこと ○不正使用や不正アクセスされないように利用できること
各教科		<ul style="list-style-type: none"> □国語科「アップとルーズで伝える」 ※写真を撮ったり記事を書いたりする場合に「アップ」の方がよい場合と、「ルーズ」の方がよい場合があることを知る。 □理科「季節と生物」 ※栽培しているツルレイシの成長の様子を、タブレット端末のカメラ機能を使用し撮影する。また、年間を通して撮影した写真を記録として保存し、季節の変化に伴い生物の様子がどのように変化するのかわかる。 □図画工作科「ほって表す不思議な花」 ※自分がつくった作品をタブレット端末のカメラ機能を使用し撮影する。また、作品の工夫したところなどを付加して入力する。 	<ul style="list-style-type: none"> □社会科「自然を生かす八女市星野村」 ※自然豊かな八女市星野村がどのような村なのかについて、必要な情報を調べる。 □国語科「世界にほころ和紙」 ※自分が選んだ工芸品について、インターネットを正しく利用して調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> □体育科「体の発育と健康」 ※体をよりよく発育・発達させるためには、適切な運動、食事、休養及び睡眠が必要であることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> □体育科「マット運動・跳び箱運動・鉄棒運動」 ※器械運動について、タブレット端末のカメラ機能で動画を撮影し合い、基本的な技や応用的な技のポイントを身に付ける。
総合	<ul style="list-style-type: none"> □単元名「オンラインゲームとの付き合い方を考えよう」 ※ゲームの複雑な仕組みや独特の技法、表現について情報を収集したり分析したりし、ゲームの特性がわかる ※ゲームの制作者の工夫を調べ、ゲームのもつ良さがわかる。また、長時間利用や価値観の偏りによる悪影響などの問題点をもっていること気付く。 ※調べたこと、考えたことを通して、ゲームや様々な情報メディアと上手につき合うことができるようになる。 				
道徳	<ul style="list-style-type: none"> □資料名「交換メール」 ※インターネットを活用することで、遠隔地の学校と繋がり、情報を交換することの楽しさを知る。 		<ul style="list-style-type: none"> □資料名「交換メール」 ※インターネットを利用して情報を交換する際のルールやマナーを知り、それらを守ろうとする。 		
特別活動			<ul style="list-style-type: none"> □題材名「わたしとメディア」 ※メディアが与える影響を知り、メディアを正しく利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> □題材名「わたしとメディア」 ※自分の心身の健康を考えて、1日のテレビやゲームの時間を制限したり、ノーメディアデーを決めたりして実行する。 	

情報モラルに関する年間指導計画 第5学年 一筑紫野市立原田小学校一

	「心を磨く領域」		「知恵を磨く領域」		
	(ネットコミュニケーション)	(権利と法の遵守)	(信頼性や危機回避)	(心身の健康)	(セキュリティ基礎知識)
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○インターネット上のコミュニケーション(携帯電話等)でも、相手の気持ちを思いやり、言葉を適切に選ぶこと ○情報を発信するときは、正しい内容を伝えられるよう心がけること ○インターネット上のコミュニケーションは、不特定多数の人に公開される場合もあること ○他人や社会への影響を考えて行動すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○著作権について知り、他者の著作物を使うときには許諾を得るなどのルールが必要であること ○肖像権について知り、他者の顔や姿の写った写真や動画を勝手に使ってはいけないこと(アップロードなど) ○情報にも、自他の権利があることを知り、尊重すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○一つの情報を鵜呑みにせず、いくつかの情報を比較するなどして、正しい情報を得ることが大切であること ○インターネット上には、詐欺などの犯罪や害になるWebページがあることを知り、危険なものを見ないようにすること ○インターネット上のゲームでは、お金がかかる(課金)ものがあり、家庭のルールに従う必要があること ○何がルール・マナーに反する行為かを知り、絶対に行わないこと ○「ルールや決まりを守る」ということの社会的意味を知り、尊重すること ○契約行為の意味を知り、勝手な判断で行わないこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンピュータやインターネットの長時間の利用が、生活や心身の健康に影響を及ぼすことを知り、正しい使い方をすること ○自他の個人情報を、第三者にもらさないこと ○健康を害するような行動を自制すること ○人の安全を脅かすよう行為を行わないこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○個人情報にはどんなものがあるか知ること ○不特定多数の人に、個人情報を知られることで、危険な目にあったり、人に迷惑をかけたことがあること ○タブレット等のIDやパスワードは、家の鍵と同じく大切であり、人のIDやパスワードを勝手に使ってはいけないこと ○不正使用や不正アクセスされないように利用できること ○情報の破壊や流出を守る方法を知ること
各教科	<ul style="list-style-type: none"> □社会科「情報を伝える人々とわたしたち」 ※放送局によるメディア以外のメディア活用例などを通して、各種メディアの特徴や利用状況の変化について捉え、その活用の仕方を多角的に考える。 □社会科「くらしと産業を変える情報通信技術」 ※ICT活用が生活や産業にもたらす影響について、多角的な視点で捉え、ICT活用の進展に伴う社会の変化や課題について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> □国語科「国有種が教えてくれること」 〈情報〉統計資料の読み方 「グラフや表を用いて書こう」 「インターネットを使って調べよう」 ※考えの根拠を示すために、統計資料を調べたり、グラフや表を参考にしたりして、自分の考えに合う資料を集め、理由や根拠を明確にしながら自分の考えを記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> □国語科「想像力のスイッチを入れよう」 ※筆者が説明する「メディア」とは何かを事実と感想、意見などとの関係を叙述をもとに読み取り、メディアとの関わり合い方について話し合い、自分の考えを広げる。 □家庭科「持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方」 ※インターネットでの買い物やオンラインゲームアプリへの課金などのトラブルにならないように買い物をするときは、買い方の仕組みを理解し、家庭のルールに従う。 		<ul style="list-style-type: none"> □図画工作科「季節を感じて」 ※学校の敷地内で、季節を感じたことを、タブレット端末のカメラ機能で撮影する。 □図画工作科「色を重ねて広がる形」 ※友達を撮影した写真が不正使用されないように、端末上のフォルダに保存する。 □体育科「マット運動・とび箱運動・鉄棒運動および走り幅跳び」 ※器械運動について、タブレット端末のカメラ機能で動画を撮影し合い、基本的な技や応用的な技のポイントを身に付ける。
総合		<p>単元名「正しく使おう！ ぼくたち・わたしたちのスマホデビューに向けて」 ※スマホのもつ恩恵と問題点を調べたり、自分たちに合ったスマホの機能を考えたりすることを通して、情報技術の特性を理解するとともに、未成年であっても、情報社会の一員として生活していることに気付き、情報社会での行動に責任をもって生活する。</p>			
道徳			<ul style="list-style-type: none"> □資料名『知らない間の出来事「よりよい友達関係」』 ※軽率な言動や真偽を確認しないままの行為が人間関係にトラブルを生むことに気付き、その解決方法について原因を考えさせることを通して、真の友情を育てるとともによりよい人間関係を構築する。 		
特別活動			<ul style="list-style-type: none"> □題材名「つながるっていいね(ネット)」 ※ネット等を通じてのコミュニケーションの特徴やよさを理解し、非対面でも、相手の状況や立場を考え、思いやりをもってやり取りする。 	<ul style="list-style-type: none"> □題材名「メディアバランスを考えよう」 ※メディアが私たちの生活にもたらす良さや課題の双方を理解し、メディア計画表の作成を通して、健康的な生活とメディアの利用をバランスよく両立する。 	

情報モラルに関する年間指導計画 第6学年 一筑紫野市立原田小学校一

	「心を磨く領域」		「知恵を磨く領域」		
	(ネットコミュニケーション)	(権利と法の遵守)	(信頼性や危機回避)	(心身の健康)	(セキュリティ基礎知識)
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○インターネット上のコミュニケーション(携帯電話等)でも、相手の気持ちを思いやり、言葉を適切に選ぶこと ○情報を発信するときは、正しい内容を伝えられるよう心がけること ○インターネット上のコミュニケーションは、不特定多数の人に公開される場合もあること ○他人や社会への影響を考えて行動すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○著作権について知り、他者の著作物を使うときには許諾を得るなどのルールが必要であること ○肖像権について知り、他者の顔や姿の写った写真や動画を勝手に使ってはいけないこと(アップロードなど) ○情報にも、自他の権利があることを知り、尊重すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○一つの情報を鵜呑みにせず、いくつかの情報を比較するなどして、正しい情報を得ることが大切であること ○インターネット上には、詐欺などの犯罪や害になるWebページがあることを知り、危険なものを見ないようにすること ○インターネット上のゲームでは、お金がかかる(課金)ものがあり、家庭のルールに従う必要があること ○何がルール・マナーに反する行為かを知り、絶対に行わないこと ○「ルールや決まりを守る」ということの社会的意味を知り、尊重すること ○契約行為の意味を知り、勝手な判断で行わないこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンピュータやインターネットの長時間の利用が、生活や心身の健康に影響を及ぼすことを知り、正しい使い方をすること ○自他の個人情報を、第三者にもらさないこと ○健康を害するような行動を自制すること ○人の安全を脅かすような行為を行わないこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○個人情報にはどんなものがあるか知ること ○不特定多数の人に、個人情報を知られることで、危険な目にあったり、人に迷惑をかけたことがあること ○タブレット等のIDやパスワードは、家の鍵と同じく大切であり、人のIDやパスワードを勝手に使ってはいけないこと ○不正使用や不正アクセスされないように利用できること ○情報の破壊や流出を守る方法を知ること
各教科	<ul style="list-style-type: none"> □国語科「聞いて、考えを深めよう」 ※話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えて、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる。 □国語科「私たちにできること」 ※事実と感想、意見とを区別して書くなどして、自分の考えが伝わるように工夫して書き表す。 	<ul style="list-style-type: none"> □国語科「『鳥獣戯画』を読む」 ※引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。 □図工科「私のお気に入りの場所」 ※学校の敷地内から、自分のお気に入りの場所を見つけてタブレット端末のカメラ機能で撮影する。 □図工科「時空を超えて」 ※著作権があることを理解した上でインターネットを活用して画像を調べる。 □外国語科「Let's go to Italy」 ※他者のパンフレット等案内を勝手に使ってはいけないことを理解した上で、インターネットを活用して「旅先案内カード」を作る。 □社会科「憲法と私たちの暮らし」 ※基本的人権の中には憲法に定められていないが、社会の変化と共に広まった権利(プライバシーの権利、肖像権など)があることを知る。 □音楽科「じゅんかんコードをもとにアドリブで遊ぼう」 ※既存のものには著作権があることを理解した上でインターネットを活用してじゅんかんコードを調べる。 □音楽科「役割を決めて音階をもとにした音楽をつくろう」 ※他人が作った作品をそのまま使用することは、著作権の侵害にあたることを知った上インターネットを活用して調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> □国語科「情報と情報をつなげて考えるとき」 ※目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして伝えたいことを明確にする。 □家庭科「まかせてね今日の食事」 ※タブレット内にいくつかの料理を入れ、バランスのよい食事のメニューを選択し、作成する。 □外国語科「Let's go to Italy」 ※行ってみたいおすすめのお国や地域をインターネットを使って調べる。 □社会科「日本とつながりの深い国々」 ※日本とつながりの深い国を調べる際に、本やインターネットで得たいいくつかの情報を比較して、正しい情報を見付ける。 □体育科「鉄棒運動」 ※インターネットの画像を使用することは、料金が発生する可能性があることを知り、適切に必要な技の情報を得て、自分の動きと比較する。 	<ul style="list-style-type: none"> □家庭科「自分の時間と生活時間」 ※生活時間の使い方を考え、コンピュータやインターネットの利用時間が増えることで起こる弊害についての動画視聴を行う。 □体育科「病気の予防」(保健) ※病気は病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関わり合って起こることを理解するために、動画を使って健康な生活について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> □図工科「私のお気に入りの場所」 ※学校の敷地内から、自分のお気に入りの場所を見つけてタブレット端末のカメラ機能で撮影する。 □体育科「跳び箱運動」「マット運動」 ※タブレットを使って自分の技とモデルとなる動画の技を比較して、よりよい動きを身に付ける。
総合的な学習	<p>単元名「歴史探索、原田宿」 ※インターネットで検索した画像等の無断使用は法律で禁止されていることがわかる。 ※相手に応じて、言葉を選び、適切な情報を伝えるように心がけることがわかる。</p>				
道徳	<ul style="list-style-type: none"> □資料名「ほんとうのことだけど…」 ※情報を他者に発信するときは、人を傷つける内容になっていないか留意することがわかる。 □資料名「ロレンゾの友達」 ※よりよい友人関係を構築するためには、信じるのが大切であることに気付き、互いに信頼して友情を深めようとする。 □資料名「人間をつくる道一剣道一」 ※相手を敬い、尊重する気持ちを示すことの意義がわかり、礼儀正しく真心をもって接しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> □資料名「消えた本」 ※図書館の本を例示し、私たちの「権利」と「義務」の意味がわかる。 		<ul style="list-style-type: none"> □資料名「カスミと携帯電話」 ※スマホのけじめのない使い方によって生活リズムが狂ってしまう可能性があることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> □資料名「自分を守る力って」 ※自分の住所や電話番号を、不特定多数の人に教えることは、犯罪等に巻き込まれる可能性があることを知る。
特別活動		<ul style="list-style-type: none"> □題材名「写真を公開する前に」 ※写真を広く公開する時に気を付けることを話し合う。 			

情報モラルに関する年間指導計画 第1学年 —筑紫野市立筑紫野南中学校—

	「心を磨く領域」		「知恵を磨く領域」		
	(ネットコミュニケーション)	(権利と法の遵守)	(信頼性や危機回避)	(心身の健康)	(セキュリティ基礎知識)
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○インターネット上のコミュニケーション(携帯電話等)でも相手の気持ちに配慮した内容や表現を考えること。 ○情報を発信するときは、その影響も考え責任をもって多様なツールを活用すること。 ○インターネット上のコミュニケーションでは、相手のことをよく知らず行われることが多く、誤解や思い込みなどが起きやすいこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○著作権の基本的な内容を知り、著作物の保護の重要性や利用するときのルールを理解すること。 ○肖像権について知り、他者の顔や姿の映った写真や動画を勝手に使ってはいけないこと(アップロード等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な情報源から得たこと確かさや有用性を判断するとともに、有害なものは無視すること。 ○インターネット上の犯罪についての概要を知り、ネットショッピングなどに興味本位で参加すると危険な目に遭う可能性があること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンピュータやインターネット、携帯電話の長時間の利用が生活や心身の健康に影響を及ぼすことを知り、適切な使い方をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○流出した個人情報を取り返すことができないことを理解し、流出を防ぐ基本的方策を知ること。 ○タブレット等のIDやパスワードは重要であり、他人に知られないように厳重に管理しなければいけないこと、他人のIDやパスワードを不正に使用してはいけないこと
各教科	<ul style="list-style-type: none"> □理科「地震の揺れ方と規則性」 ※地震計のデータ分析を行い、情報を吟味する。 □保健体育「インターネットによるコミュニケーションとトラブル」 ※コミュニケーションのずれを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> □国語科「根拠を示して説明しよう」 ※調査結果などの根拠を明確にして、説得力のあるレポートを書く。 □国語科「情報を引用しよう」 ※著作権について学び、適切な引用のしかたを考える。 □社会科「身近な地域の歴史」 ※肖像権等に配慮しながら、情報機器を利用して身近な地域の歴史に関する野外調査や聞き取り調査を行い、著作権に気をつけながら調査結果をレポートにまとめる。 □外国語科「Club Activities」 ※インタビュー動画を撮影する場面から、必要な内容を紹介する。 □外国語科「Friends in New Zealand」 ※オンライン授業の場面を通して、デジタル機器を介して話すときに注意する。 □外国語科「A Surprise Party Unit Activity」 ※タブレットの動画機能を使って、何をしているかクイズをつくる。 □外国語科「A Speech about My Brother」 ※自分の好きな人物についてパワーポイントを使って紹介する。 □外国語科「Stage Activity3」 My Favorite Event」 	<ul style="list-style-type: none"> □国語科「情報を集めよう・情報を読み取ろう」 ※効果的な情報の集め方とその活用のしかたについて考える。 □国語科「情報を読み取ろう」 ※複数のグラフと文章中の情報を関連づけながら、本や新聞を読み解く。 □数学科「データの活用」 ※様々な代表値(平均値・中央値・最頻値)を比較することを通して、1つのデータのみから傾向を予測してしまうことの危険性を知る。 ※ヒストグラムで、階級の幅を変えると形が変わり、印象が変わることもあることを知ること、複数の情報から物事を判断することの重要性を実感する。 □社会科「身近な地域の歴史」 ※身近な地域の歴史について問を立て、インターネットを利用して出典などに注意しながら情報収集する。 □理科「自然の恵みと災害」 ※自然の恵みや災害について、インターネットを利用して出典などに注意しながら情報収集する。 □外国語科「Think Globally, Act Locally」 ※海外の医療や教育に関する内容を読み、私たちにできることをインターネットから更に詳しく調べ、ポスターを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> □技術・家庭(家庭分野) 「私たちと家族との関わり」 ※普段の家族との関わりを想起させ、望ましい声かけや態度についてロールプレイングさせる。家族とのトラブルにスマホの注意を受けることが多いため、心身の発達や健康に影響を及ぼすことを説明する。 □保健体育「休養と睡眠」 ※長時間の利用や依存してしまうと、睡眠不足や体調不良を引き起こす原因になることを理解する。 	

		<p>※一年間の思い出をパワーポイントで、紹介する。</p> <p>□美術科「世界の仮面と出会う」</p> <p>□技術・家庭（家庭分野） 「家庭と地域の関わり」</p> <p>※校区または筑紫野市の行事を市のホームページで調べ、行事の役割をロイロノートにまとめて発表する。画像の取り込みの際に肖像権について説明する。</p>	<p>□外国語科「Winter Vacation」</p> <p>※冬休みに行きたい場所の食文化や歴史を調べ、パワーポイントを使って紹介する。</p> <p>□技術・家庭（家庭分野） 「家庭と地域の関わり」</p> <p>※インターネットには、偽情報が含まれることを説明する。</p> <p>□保健体育「異性の尊重と性情報への対処」</p> <p>※不適切な情報もたくさんあるので、そのような情報を取捨選択する必要があることを理解する。</p>		
総合	<p>□宿泊研修「相手とのコミュニケーションの取り方」</p> <p>※コミュニケーションの方法を列挙し、ネットでのコミュニケーションを日常的に活用していることに気づく。その際、短文投稿サイトを活用して、自分のコミュニケーションに課題を見出す。</p> <p>□キャリア教育「職業調べにおけるレポート作成」</p> <p>※情報機器を使った様々な職業を調べる活動を通して、伝える相手を考えながら情報を正しく収集したり、調べ学習の発表や学校ホームページ等を通して発信したりすることができるようにする。</p>	<p>□キャリア教育「職業調べにおけるレポート作成」</p> <p>※写真や画像を扱うときに、出典をレポートに掲載する。</p>	<p>□キャリア教育「職業調べにおける調べ学習」</p> <p>※インターネットを用いた調べ学習を行う。</p>		□キャリア教育「職業調べ」
道徳	<p>□道徳科「短文投稿サイトに友達の悪口を書く」と（友情、信頼）</p> <p>※ネットコミュニケーションにおける友情や信頼を深めようとする心情について考える。</p>				
特別活動	<p>□宿泊研修「事後活動におけるレポートを発信する」</p> <p>※SNS やインターネットから情報を収集したり、発信したりするときに必要な知識や技能を理解することができるようにする</p>	<p>□外部講師による講話「親子学習会 スマホを上手に使うには」</p>		<p>□生徒会活動「ノーメディアデー」</p> <p>※メディアにおける身体的な影響を知り、各家庭において目標を決め、実践をする。その後、達成できたかチェック活動を行い、自己を振り返る。</p>	

情報モラルに関する年間指導計画 第2学年 —筑紫野市立筑紫野南中学校—

	「心を磨く領域」		「知恵を磨く領域」		
	(ネットコミュニケーション)	(権利と法の遵守)	(信頼性や危機回避)	(心身の健康)	(セキュリティ基礎知識)
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○インターネット上のコミュニケーション(携帯電話等)でも相手の気持ちに配慮した内容や表現を考えること。 ○情報を発信するときは、その影響も考え責任をもって多様なツールを活用すること。 ○インターネット上のコミュニケーションでは、相手のことをよく知らず行われることが多く、誤解や思い込みなどが起きやすいこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○著作権の基本的な内容を知り、著作物の保護の重要性や利用するときのルールを理解すること。 ○肖像権について知り、他者の顔や姿の映った写真や動画を勝手に使ってはいけないこと(アップロード等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な情報源から得たこと確かさや有用性を判断するとともに、有害なものは無視すること。 ○インターネット上の犯罪についての概要を知り、ネットショッピングなどに興味本位で参加すると危険な目に遭う可能性があること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ コンピュータやインターネット、携帯電話の長時間の利用が生活や心身の健康に影響を及ぼすことを知り、適切な使い方をすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○流出した個人情報を取り返すことができないことを理解し、流出を防ぐ基本的方策を知ること。 ○タブレット等のIDやパスワードは重要であり、他人に知られないように厳重に管理しなければいけないこと、他人のIDやパスワードを不正に使用してはいけないこと
各教科	<ul style="list-style-type: none"> □理科「気象のしくみと天気の変化」 ※気象観測を行い、気象要素を記号等で表し、発信者としての責任を気づく。 □外国語科「A Trip to Singapore」 ※Eメールを読んで、相手に伝わる表現や内容になっているか考える。 □外国語科「Research Your Topic」 ※聞き手に伝わるようにグラフや表を使って説明する。 □美術科「地域の魅力を伝える」 	<ul style="list-style-type: none"> □社会科「身近な地域の調査」 ※肖像権等に配慮しながら、情報機器を利用して身近な地域の実態に関する野外調査や聞き取り調査を行い、著作権などに気をつけながら調査結果をレポートにまとめる。 □理科「気象のしくみと天気の変化」 ※気象庁のデータを扱うときに、出典を書く。 □外国語科「A Trip to Singapore」 ※本文から主人公の動画撮影が適切かどうかを学ぶ。 □外国語科「Food Travels around the World」 ※食文化の歴史を通して、日本と海外の良さを調べる。 □外国語科「My Favorite Place in Our Town」 ※お勧めの店や場所を調べ、町のガイドマップを作る。 □外国語科「World Heritage Sites」 ※行ってみたい世界遺産について調べて、プレゼンする。 □美術科「地域の魅力を伝える」 □美術科「日本の伝統工芸」 □技術・家庭(家庭分野) 「食品の選択：食品添加物」 ※自分が食べた食品の品質表示を集め、どのような食品添加物が含まれているか 	<ul style="list-style-type: none"> □国語科「メディアを比べよう」 ※身の回りにある情報メディアを比較し、特徴をまとめる。 □国語科「メディアの特徴を生かして情報を集めよう」 ※目的や状況に応じたメディアの選び方について考える。 □数学科「データの分布と確率」 ※データを箱ひげ図に整理することで、そのデータの傾向を読み取る。 ※複数のデータを箱ひげ図に整理することで、それらのデータを比較する。 ※読み取った情報から目的にあう選択をする。 □数学科「場合の数と確率」 ※ものごとの起こりやすさを、先入観や感覚ではなく、論理的に考察する。 □社会科「身近な地域の調査」 ※身近な地域の課題からテーマを決め、インターネットを利用して情報の出どころなどに注意しながら課題に関する情報収集する。 □理科「気象のしくみと天気の変化」 ※気象庁等のデータにふれ、気象をデータからとらえる。 □外国語科「My Future Job」 ※日々変化する世の中の仕事について調べる。 □外国語科「Homestay in the United 	<ul style="list-style-type: none"> □理科「生物の体のつくりとはたらき」 ※目の構造について学び、視覚情報を受け取る際のしくみを知る。 □保健体育「インターネットと依存性」 ※インターネットやゲーム依存症になると、睡眠障害や視力障害、身体活動不足などの健康問題が出現しやすくなることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> □外国語科「Learning TECHNOLOGY in English」 ※情報技術の長所と短所を知り、安全な活用方法を考え話し合う。

		調べさせる。ロイロにまとめるときに、画像の著作権について説明する。	States」 ※体験事例から聞いた情報がどれだけ正確な情報かを判断する。 □外国語科「Research Your Topic」 ※調べ学習で得た情報の扱い方についてどのように伝えるか考える。 □外国語科「Stage Activity2 Research and Presentation」 ※集めた情報を精査し、プレゼンで伝えたいことを相手に伝える。 □美術科「地域の魅力を伝える」 □美術科「日本の伝統工芸」 □技術・家庭（家庭分野） 「食品の選択：食品添加物」 ※食品添加物についての情報を調べるときに、複数のページを確認し、共通する内容がどれかを見ることで、情報の真偽を確認させる。 □保健体育「自然災害による障害の防止」 ※災害時にたくさんの情報の中で、どのように正しい情報を入手し、行動に移すことが大切であるかを理解する。		
総合	□修学旅行「集団行動」	□市民性育成プロジェクト「地域貢献活動報告書作成」	□修学旅行「班別自主研修計画」 ※インターネットによる情報収集の方法について理解する。 □キャリア教育「職場体験」 ※学校外で学んだ情報や写真を用いてレポートを書く活動を位置付け、情報を発信し、「SNS への適切な関わり方」の実践の場となるようにする。		
道徳	□道徳科「ゴール」(友情、信頼)	□道徳科「『いいね』のために？」(遵法精神、公德心)			
特別活動		外部講師による講話「親子学習会 スマホを上手に使うには」	□「SNS への適切な関わり方」 ※「模擬 SNS」シミュレーションゲームを用いて、普段の情報の受け取り方や発信の仕方について振り返る。 ※デジタルメディアの特性を知り、今後どのような投稿であればシェアしてよいのかについて話し合う。さらに、今後自分がどのように情報への適切な関わり方を意思決定する。	□生徒会活動「ノーメディアデー」 ※メディアにおける身体的な影響を知り、各家庭において目標を決め、実践をする。その後、達成できたかチェック活動を行い、自己を振り返る。	

情報モラルに関する年間指導計画 第3学年 —筑紫野市立筑紫野南中学校—

	「心を磨く領域」		「知恵を磨く領域」		
	(ネットコミュニケーション)	(権利と法の遵守)	(信頼性や危機回避)	(心身の健康)	(セキュリティ基礎知識)
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○インターネット上のコミュニケーション(携帯電話等)でも相手の気持ちに配慮した内容や表現を考えること。 ○情報を発信するときは、その影響も考え責任をもって多様なツールを活用すること。 ○インターネット上のコミュニケーションでは、相手のことをよく知らず行われることが多く、誤解や思い込みなどが起きやすいこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○著作権の基本的な内容を知り、著作物の保護の重要性や利用するときのルールを理解すること。 ○肖像権について知り、他者の顔や姿の映った写真や動画を勝手に使ってはいけないこと(アップロード等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な情報源から得たことの確かさや有用性を判断するとともに、有害なものは無視すること。 ○インターネット上の犯罪についての概要を知り、ネットショッピングなどに興味本位で参加すると危険な目に遭う可能性があること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンピュータやインターネット、携帯電話の長時間の利用が生活や心身の健康に影響を及ぼすことを知り、適切な使い方をすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○流出した個人情報を取り返すことができないことを理解し、流出を防ぐ基本的方策を知ること。 ○タブレット等のIDやパスワードは重要であり、他人に知られないように厳重に管理しなければいけないこと、他人のIDやパスワードを不正に使用してはいけないこと
各教科	<p>□社会科「情報化が進む現代」</p> <p>※情報社会でおこるトラブルについての具体的な事例を知る。</p> <p>□技術・家庭(技術分野)「(D情報の技術)使いやすさを工夫した情報の表現」</p> <p>※情報の使いやすさや分かりやすさに関する工夫を知る。</p> <p>□技術・家庭(技術分野)「(D情報の技術)メディアを利用した情報の表現」</p> <p>※情報の表現手段やコンテンツの特徴を知る。</p> <p>□技術・家庭(技術分野)(D情報の技術)情報ネットワークのしくみ」</p> <p>※情報通信ネットワークの構成や情報をやりとりする仕組みを知る。</p> <p>□技術・家庭(技術分野)「(D情報の技術)情報モラル」</p> <p>※情報モラルの必要性と、情報を収集・発信するときに注意することを知る。</p>	<p>□社会科「自由権」</p> <p>※事例から知的財産権についての知識を身につける。</p> <p>□社会科「人権を守るための権利」</p> <p>※インターネット上の言論・表現の自由と公共の福祉との対立について考える。</p> <p>□社会科「これからの人権を考える」</p> <p>※インターネットを利用した人権侵害事件の推移のデータを確認し、自分が加害者にならないようどのような行動が必要か考える。</p> <p>□美術科「日本の世界文化遺産」</p> <p>□技術・家庭(家庭分野)「販売方法と購入方法」</p> <p>※購入方法(前払い・即時払い・後払い)の仕組み、利点、注意点を調べて発表させる。</p> <p>インターネットで仕組みを調べる時に、画像の肖像権を確認する。</p> <p>□技術・家庭(技術分野)「(D情報の技術)情報モラル」</p> <p>□技術・家庭(技術分野)「(D情報の技術)知的財産の保護と活用」</p> <p>※情報社会で人権などの権利を尊重する必要性を考える。</p>	<p>□国語科「実用的な文章を読もう」</p> <p>※実用的な文章から、情報を伝えるための工夫を理解し、生活の中でどう生かすかを考える。</p> <p>□国語科「情報の信頼性」</p> <p>※情報は編集されていることを知り、情報の信頼性を確かめる方法を学ぶ。</p> <p>□数学科「標本調査」</p> <p>※全数調査と標本調査のデータを比較することを通して、調査対象の一部を調べる標本調査は全体の傾向を推定することには優れる反面、調査対象によっては調査の結果が事実と異なることもあることを確認し、情報の信頼性を吟味することの重要性を実感する。</p> <p>□社会科「情報化が進む現代」</p> <p>※インターネット利用人口の実態やサイバー犯罪検挙件数の推移をデータで知り、身近なネット犯罪についての知識を習得する。</p> <p>□社会科「世論とマスメディア」</p> <p>※政治におけるマスメディアの役割と注意点を知り、事実と虚偽の見極めについて具体例から学ぶ。</p> <p>□理科「科学技術と人間」</p> <p>※情報を伝える科学技術を知り、メリットとデメリットについて考える。</p> <p>□外国語科「Let's Write2 記事への意見-投稿文-」</p> <p>※複数の情報を調べた上で、様々な読み手の立場を考えて自分の意見を述べる。</p> <p>□外国語科「Let's Listen2 講演」</p> <p>※英語の動画サイトで話された食料自給率についてグラフから正しく聞き取る。</p> <p>□外国語科「Animals on the Red List 守りた</p>	<p>□理科「科学技術と人間」</p> <p>※情報を伝える科学技術を知り、メリットとデメリットについて考える。</p> <p>□理科「遺伝の規則性と遺伝子」</p> <p>※遺伝子に関する研究と私たちの生活について知り、DNAをもとにした生命情報の大切さや負の側面について考える。</p> <p>□技術・家庭(家庭分野)「販売方法と購入方法」</p> <p>※購入方法(前払い・即時払い・後払い)の仕組み、利点、注意点を調べて発表させる。後払い(クレジットカード)の仕組みでパスワードの取り扱いについて説明する。</p> <p>□技術・家庭(技術分野)「(D情報の技術)情報セキュリティ」</p> <p>※情報セキュリティの重要性と危険を防ぐための技術を知る。</p> <p>□技術・家庭(技術分野)「(D情報の技術)情報モラル」</p> <p>※基本的な情報セキュリティ対策を実行する。</p>	

			<p>い日本の動物たち」</p> <p>※絶滅危惧種の動物について調べ、自分の意見や考えを加えて記事を書く。</p> <p>□外国語科「Be Prepared and Work Together」</p> <p>※様々な情報から正しく必要な防災情報を判断する方法を話し合う。</p> <p>□外国語科「Let's Write3 グラフや表の活用-レポート-」</p> <p>※レポート作成を通して、グラフやデータの表記の仕方や資料に基づいた情報を記述する。</p> <p>□美術科「日本の世界文化遺産」</p> <p>□技術・家庭（家庭分野）</p> <p>「消費者を取り巻く問題」</p> <p>※悪質商法の学習において、インターネット上で行われる詐欺（アポイントメントセールス・サクラサイト）について説明する。</p> <p>□技術・家庭（技術分野）「(D 情報の技術) 情報セキュリティ」</p> <p>□技術・家庭（技術分野）「(D 情報の技術) 情報モラル」</p>		
総合	<p>□上級学校調べ「報告書作成」</p> <p>※報告書を複数の他人から見られることを考慮し、レポートを評価する際、正確性や文字情報での影響を考え振り返る。</p>	<p>□上級学校調べ「ネットを使った調査」</p> <p>□上級学校調べ「報告書作成」</p> <p>※著作権・肖像権を考慮して、レポートを作成する。</p>	<p>□上級学校調べ「ネットを使った調査」</p> <p>※情報の信頼性、信ぴょう性の判断の仕方や評価する方法について考え、情報を批判的に読み解く能力を高める。</p> <p>※ネット広告の見極め、事実と個人の意見の区別を考え、情報は自己が意思決定するツールの一つとして扱うことを知る。</p>		
道徳	<p>□道徳科「ある日の午後から」（自主、自律、自由と責任）</p> <p>□道徳科「合格通知」（友情、信頼）</p>			<p>□道徳科「スマホに夢中！」（節度、節制）</p> <p>※情報機器のけじめのない使い方によって、自分の心身の安全がおびやかされてしまうこともあることに気づくことができるようにする。</p>	
特別活動		<p>□外部講師による講話「親子学習会 スマホを上手に使うには」</p>		<p>生徒会活動「ノーメディアデー」</p> <p>※メディアにおける身体的な影響を知り、各家庭において目標を決め、実践をする。その後、達成できたかチェック活動を行い、自己を振り返る。</p> <p>□「カード式の活用状況マッピングワーク」</p> <p>※スマホ利用におけるメリットとデメリットをカードにしたものから、自分に該当するものを抽出し、それを並び替えることで自らの利用実態を可視化する。</p>	

引用・参考文献

- | | | |
|-----------------------------------------------------|-------|-------|
| ◇ 小学校学習指導要領解説 特別活動 | 文部科学省 | 平成29年 |
| ◇ 小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間 | 文部科学省 | 平成29年 |
| ◇ 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳 | 文部科学省 | 平成29年 |
| ◇ 中学校学習指導要領解説 特別活動 | 文部科学省 | 平成29年 |
|
 | | |
| ◇ 教育の情報化に関する手引（追補版） | 文部科学省 | 令和2年 |
|
 | | |
| ◇ 吟味思考を育むメディアリテラシー
山脇岳志、坂本旬 | 時事通信社 | 2022年 |
| ◇ はじめようデジタルシティズンシップの授業
日本デジタルシティズンシップ教育研究会 坂本旬 他 | 日本標準 | 2023年 |

ご参会の皆様へ

令和4・5・6年度 福岡県重点課題研究指定委嘱地域（校）

令和4・5・6年度 筑紫野市立教育委員会研究指定・委嘱校

筑紫野市立原田小学校・筑紫野市立筑紫野南中学校

中間報告会参加者アンケート

本研究会にご参加いただいた皆様方に、本研究の中間報告会についてのアンケートについてご回答いただき、今後の教育活動に役立てていきたいと存じます。

つきましては、下記の二次元コードを読み取っていただき、ご回答ください。ご協力よろしく申し上げます。



アンケート URL

<https://forms.office.com/r/39dVtYVdqM>

本日はご参会ありがとうございました。
お気をつけてお帰りください。



おわりに

令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果^{※1}（文部科学省，令和5年10月4日）によると，いじめの態様として「パソコンや携帯電話等で，ひぼう・中傷や嫌なことをされる。」の件数は，平成27年度が9,187件であるのに対し，令和4年度では21,900件が報告され，増加傾向にあることが示されています。また，いじめの全発生件数における同項目の割合は，小学校が1.8%，中学校が10.2%，高等学校が16.5%，特別支援学校が8.6%であり，特に中学校及び高等学校においては，ネットトラブルがいじめの主要な態様となっていることが示されました。この調査結果から，情報化社会の進展に伴うリスクとベネフィットに係る知識，とりわけ情報モラルに関する知識の獲得は，大人だけでなく，児童生徒も自らが直面する課題として捉える必要があると考えられます。

ところで，児童生徒の1人1台端末が整備され，学校現場におけるICT環境が急速に整備されることに伴い，教師の技術と関わる教育的内容知識（Technological Pedagogical Content Knowledge：TPACK）の在り方が問われています（小柳，2019^{※2}）。教育におけるICT機器利活用の進展に伴い，教員の情報モラルを含むICT活用指導力の育成も喫緊の課題です。

そこで，筑紫野南中学校と原田小学校では，児童生徒の情報モラルに関する資質・能力を小中学校の9年間で意図的・計画的・継続的に育成するカリキュラムの編成をゴールとして実践的研究を積み上げてまいりました。本研究を推進するにあたり，その学齢期に育成すべき情報モラルに関する資質・能力は何か，児童生徒が直面することが想定される情報モラル課題は何か，地域・家庭教育と協働で情報モラル課題を解決するためにはどのような展開が効果的なのか等，中学校と小学校の研究担当者が議論を重ね，得られた知見を実践・検証してまいりました。その結果，総合的な学習の時間，道徳，特別活動を中核として，各教科等に関連づけた教科横断型カリキュラムの編成の有効性を認識し，本日は，研究の一端を公開いたしました。

御参加いただいた皆様から，忌憚のない御意見を頂戴し，来年度に控えた最終報告会に向けた更に研究を充実させる所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

結びに，我々の研究に大所高所から御指導・御助言をいただきました，福岡県教育庁教育振興部義務教育課，福岡教育事務所，福岡県教育センター，筑紫野市教育委員会のみなさまに，改めて御礼申し上げます。また，大阪電気通信大学教授石塚丈晴様には，本日は御指導いただいたことをもとに，最終報告会に向けて研究を推進していく所存です。今後とも御指導のほどよろしくお願いいたします。さらに，御支援くださった学校運営協議会，筑紫南コミュニティセンター，PTAのみなさまに厚く御礼申し上げます。

筑紫野市立原田小学校 校長 礒部 年晃
筑紫野市立筑紫野南中学校 校長 船本 浩之

※1 本調査結果については，次のURLを御参照ください。（令和5年10月31日現在）
https://www.mext.go.jp/content/20231004-mxt_jidou01-100002753_2.pdf

※2 小柳和喜雄（2019）授業でのICT活用において教員に求められる専門知識の研究－TPACKを活かした学習活動と学習評価の設計を中心に－，奈良教育大学教職大学院研究紀要「学校教育実践研究」，pp.87-pp.93